2008年度

講　義　計　画

桃山学院大学

講　義　計　画

科目名			
英米小説研究－批評を読む：メルヴィル			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	春学期集中	4単位	佐々木　英　哲

【講義概要・学習目標】
Melvilleを例にとり文学（小説）研究の手ほどきをする。講義は英語、日本語の２セクションで構成される。

Whether they set out to explain the riddles of social or natural phenomenon, or to demystify the weird behaviors of human beings and theorize on the dynamics of complex human minds, natural and social scientists are likely to adopt the same procedure: observe, measure, analyze, decode, and interpret the object, formulate and verify a hypothesis if necessary, and finally describe the result with figures and letters. In dealing with literary works, you may follow more or less the same process.

In half of the lectures (12 of the 24), to be conducted in English, I will explain some of the indispensable techniques used by readers to interpret literary works, as well as some of the basic rules that writers (un) consciously follow in producing literary works.

We hope, in the not-too-distant future, to reach our goal of holding discussions in English on our interpretations of literary texts and the results we can conjecture. To prepare for this, we will read several theses by American scholars specialized in American literature, as models that we can try to emulate. This is likely to be a challenge, as most students have yet to get the knack of reading criticism. I will therefore try to familiarize the students with criticism in the other 12 lectures of this course, explaining in Japanese some of the basic skills for reading scholarly English texts.

To start off, we will read some criticism on Herman Melville's posthumously published novella, Billy Budd (1924). If necessary, we will also read some crucial parts of the primary text [Billy Budd], in English. In presenting this lecture, I will assume that you have already read Melville's Billy Budd (in translation) beforehand. To brace you against possible disappointment, let me warn you in advance that this course is likely to require great powers of perseverance.

【講義計画】
英語によるセクション（1）－(12)

Lectures to be conducted in English
(1)　What is Literature, What is Text?
(2) － (3)　The Elements of Fiction: Plot, Characterization, Point of View
(4) － (8)　Theoretical Approaches to Literature: Text-Oriented Approaches, Author-Oriented Approaches, Reader-Oriented Approaches, Context-Oriented Approaches
(9) － (10)　How to Write a Scholarly Paper
(11) － (12)　Herman Melville: his World and Work

日本語によるセクション　(13) － (24)

Herman Melville (1819-91) の遺作 Billy Budd (1924) を扱った論文を読んでいく。原典の「さわり」となる部分については原文で紹介することも考えている。Billy Budd はあらかじめ読んでいることを前提に授業を進めていく。翻訳でもかまわないので、読んでおくこと。念のため申し添えておくが、授業は地味な作業の積み重ねである。

具体的には、以下の論文（批評）に取り組む。
(13) － (16)
Adler, Joyce Sparer. "Billy Budd and Melville's Philosophy of War." PMLA 91 (1976) : 266-78.
(17) － (20)
Willett, Ralph W. "Nelson and Vere: Hero and Victim in Billy Budd, Sailor." PMLA 82 (1967) : 370-76.
(21) － (24)
Rathbun, John W. "Billy Budd and the Limits of Perception." Nineteenth Century Fiction 20, 1 (1965) : 19-35.

【成績評価の方法】
You will be given a small test in every class and will be asked to hand in a report at the end of the semester. The report can be written in Japanese, but the summary must be in English.

毎回、授業開始時に行う確認小テスト、学期末レポートから総合的に判断。学期末レポートは日本語でかまわないが、梗概は英語で書く。

【教科書】
The students will be given handouts.　コピーを配布。

【参考文献】
Milder, Robert, ed. Critical Essays on Melville's Billy Budd, Sailor. Boston : G.K. Hall, 1989.

【備考】
英語による授業です。

科　目　名			
英米小説研究－ポール・オースターを読む			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	通期	4単位	伊　藤　貞　基

【講義概要・学習目標】

第二次大戦後の世界では、大衆社会が出現し、人々は豊かになり、様々なライフスタイルが生まれ、世界は多様化の時代を迎える。これに更にテクノロジーの長足の進歩が加わり、世の中はメディアの時代と化し、現在では、情報過剰の時代となっている。人々は情報に惑わされ、メディアが生み出す実体をともなわない幻影に惑わされ、いまや、伝統的な価値観は大きく揺らいでしまっている。そして、それに代わる確たる価値観の提示はない。こういった状況の中から、伝統的な価値観に依拠する従来のリアリズムとは異なった小説が1960年代あたりから興ってくる。世界や人間について、認識論的に問いかけるのではなく、存在論的に問いかける小説である。これがポストモダン小説である。ポール・オースター（1947-　）は第２世代に属するアメリカのポストモダン小説家で、第１世代に比べると比較的読み易く、日本でも数多くの作品が翻訳され、高い人気を得ている小説家である。その彼を一躍人気作家たらしめ、その漫画版まで出版されている、フィクションとしては彼の処女作であり、同時に彼の出世作かつ代表作であるCity of Glass を読む。この小説は探偵小説のジャンル形式を借用し、「それは間違い電話から始まった…」で始まり、探偵小説としての面白さも十分に兼ね備えているが、作者オースターはどのような事件解決を、どのようなメッセージを作品の結末に用意しているのだろうか。生き生きした現代英語の見事さを楽しみながら、オースター・ワールドの魅力を、そしてポストモダン小説を読む楽しさの一端を味わいたい。

【講義計画】

この作品は、Penguin版で13章、158頁から成る。（原書を使用するが、注釈を作成し、事前に配布する。）授業では、毎回の冒頭部分を学生が訳読し、残り部分の重要個所を教員がコメントしていく形をとり、原則として、２回の授業で１章を読み終える。各章の物語内容についての報告や、この作品の「語り」の構造や人物造型、プロットの構成、主題の展開などについての質問に教室で、あるいはレポートの形で、答えてもらう予定。また、これらとは別に、冬期休暇前に、Ｂ４　１枚にまとめた作品全体についての質問課題‘Topics for Discussion’および‘Term Paper Topics’をレポートとして提出してもらう。与えられた課題を忠実に処理していけば、自ずとレポート、あるいは、論文が出来上がるであろう。授業は City of Glassをあらかじめ読んでいることを前提に進める。短い作品なので、翻訳でもいいから、前もって、繰り返し読んでおくこと。

【成績評価の方法】

筆記試験、教室での発表状況、課題レポートの提出状況、出欠状況を総合して評価する。

【教科書】

Paul Auster The New York Trilogy. (Penguin Books)

1）山本・郷原　訳『シティ・オブ・グラス』 角川文庫　1993.11

2）飯野友幸　編『現代作家ガイド１　ポール・オースター』彩流社　1996.３

3）『ユリイカ（特集　ポール・オースター)』 青土社　1991.１

科　目　名			
英米文学概論			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
01	春学期集中	4単位	中　井　紀　明

【講義概要・学習目標】

授業の概要

英米文学作品読解と文化研究

授業の到達目標及びテーマ

英米の文学作品を読む楽しさを経験すると共に、文化的背景の知識を深める。英語教員を目指す人のために、英文読解と文化理解にポイントを置くことで、概論科目としてふさわしいものにしたい。

1．幼年期から壮年期まで、各世代に支持される作品を読むことで、人生の局面を英米文学作品を通じて考え、英米文化圏の人々の文学体験、あるいは人生を擬似体験する。

2．作品理解に必要な文化的コンテクスト－風俗、習慣、思想、社会構造－を概観することで、文化理解を深める。

3．幼年期に読む作品から始めて、自己の読解力の「英語年齢」を点検する。また、映画鑑賞で多様な英語を聴く力を養う。

【講義計画】

第１回　英米文学の読み方―理論と実践（１）
第２回　英米文学の読み方―理論と実践（２）
第３回　『不思議の国のアリス』鑑賞と分析（１）
第４回　『不思議の国のアリス』鑑賞と分析（２）
第５回　『ナルニア国物語』　鑑賞と分析（１）
第６回　『ナルニア国物語』　鑑賞と分析（２）
第７回　『ライ麦畑で捕まえて』鑑賞と分析（１）
第８回　『ライ麦畑で捕まえて』鑑賞と分析（２）
第９回　『高慢と偏見』　鑑賞と分析（１）
第10回　『高慢と偏見』　鑑賞と分析（２）
第11回　『高慢と偏見』　鑑賞と分析（３）
第12回　『嵐が丘』　鑑賞と分析（１）
第13回　『緋文字』　鑑賞と分析（１）
第14回　『嵐が丘』　鑑賞と分析（２）
第15回　『嵐が丘』　鑑賞と分析（３）
第16回　『緋文字』　鑑賞と分析（２）
第17回　『緋文字』　鑑賞と分析（３）
第18回　『オリバー・ツイスト』 鑑賞と分析（１）
第19回　『オリバー・ツイスト』 鑑賞と分析（２）
第20回　『グレート・ギャツビー』鑑賞と分析（１）
第21回　『グレート・ギャツビー』鑑賞と分析（２）
第22回　『碾き臼』　鑑賞と分析（１）
第23回　『碾き臼』　鑑賞と分析（２）
第24回　『ガラスの動物園』　鑑賞と分析（１）
第25回　『ガラスの動物園』　鑑賞と分析（２）
第26回　『セールスマンの死』　鑑賞と分析（１）
第27回　『セールスマンの死』　鑑賞と分析（２）
第28回　『ハムレット』　鑑賞と分析（１）
第29回　『ハムレット』　鑑賞と分析（２）
第30回　まとめ

【成績評価の方法】

1．小レポート：　毎回、講義に関する質問、コメント等を書いて提出（400～600字程度）

2．期末レポート：　与えられたテーマで4000～5000字程度のレポートを書く

【教科書】

プリントを配布（各作品ごとに20～40ページの原文）

【参考文献】

授業で通知する

科目名			
英米文学概論			
クラス	講義区分	単位数	担当者
02	秋学期集中	4単位	小野良子

【講義概要・学習目標】
授業の概要
英米文学作品読解と文化研究

授業の到達目標及びテーマ
英米の文学作品を読む楽しさを経験すると共に、文化的背景の知識を深める。英語教員を目指す人のために、英文読解と文化理解にポイントを置くことで、概論科目としてふさわしいものにしたい。
1．幼年期から壮年期まで、各世代に支持される作品を読むことで、人生の局面を英米文学作品を通じて考え、英米文化圏の人々の文学体験、あるいは人生を擬似体験する。
2．作品理解に必要な文化的コンテクスト－風俗、習慣、思想、社会構造－を概観することで、文化理解を深める。
3．幼年期に読む作品から始めて、自己の読解力の「英語年齢」を点検する。また、映画鑑賞で多様な英語を聴く力を養う。

【講義計画】
第１回　英米文学の読み方―理論と実践（１）
第２回　英米文学の読み方―理論と実践（２）
第３回　『不思議の国のアリス』鑑賞と分析（１）
第４回　『不思議の国のアリス』鑑賞と分析（２）
第５回　『ナルニア国物語』　鑑賞と分析（１）
第６回　『ナルニア国物語』　鑑賞と分析（２）
第７回　『ライ麦畑で捕まえて』鑑賞と分析（１）
第８回　『ライ麦畑で捕まえて』鑑賞と分析（２）
第９回　『高慢と偏見』　鑑賞と分析（１）
第10回　『高慢と偏見』　鑑賞と分析（２）
第11回　『高慢と偏見』　鑑賞と分析（３）
第12回　『嵐が丘』　鑑賞と分析（１）
第13回　『緋文字』　鑑賞と分析（１）
第14回　『嵐が丘』　鑑賞と分析（２）
第15回　『嵐が丘』　鑑賞と分析（３）
第16回　『緋文字』　鑑賞と分析（２）
第17回　『緋文字』　鑑賞と分析（３）
第18回　『オリバー・ツイスト』　鑑賞と分析（１）
第19回　『オリバー・ツイスト』　鑑賞と分析（２）
第20回　『グレート・ギャツビー』鑑賞と分析（１）
第21回　『グレート・ギャツビー』鑑賞と分析（２）
第22回　『碾き臼』　鑑賞と分析（１）
第23回　『碾き臼』　鑑賞と分析（２）
第24回　『ガラスの動物園』　鑑賞と分析（１）
第25回　『ガラスの動物園』　鑑賞と分析（２）
第26回　『セールスマンの死』　鑑賞と分析（１）
第27回　『セールスマンの死』　鑑賞と分析（２）
第28回　『ハムレット』　鑑賞と分析（１）
第29回　『ハムレット』　鑑賞と分析（２）
第30回　まとめ

【成績評価の方法】
1．小レポート：　毎回、講義に関する質問、コメント等を書いて提出（400～600字程度）
2．期末レポート：　与えられたテーマで4000～5000字程度のレポートを書く

【教科書】
プリントを配布（各作品ごとに20～40ページの原文）

【参考文献】
授業で通知する

科目名			
英米文学と現代の諸問題－青春を生きる			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	通期	4単位	伊藤貞基

【講義概要・学習目標】
青春期とは、人の一生で最も多感で、夢多き時期である。同時にそれは人間のその後の一生を左右する大切な時期、その人の将来を方向づける人生の基礎設計の時期でもある。現実世界へのイニシエーションがあり、異性との出会いがあり、そして夢と現実との相剋がある。この大切な青春期に若者たちはどのような現実体験に出会うのであろうか。短編小説を通して幾つかの事例を追体験し、青春期に固有の喜びや悲しみ、人生への苦悩といったものを自らの体験と照らし合わせながら考えてみよう。

【講義計画】
以下の短篇を精読していく。
1）Ernest Hemingway, “The End of Something”
2）Erskine Caldwell, “The Visitor”
3）Tennessee Williams, “Portrait of a Girl in Glass”
4）Irwin Shasw, “Search through the Streets of the City”
5）Bernard Malamud, “A Summer’s Reading”
6）Raymond Carver, “Everything Stuck to Him”
“The End of Something” と ” The Visitor” では男女関係の問題、“A Summer’s Reading” とSearch through the Streets of the City” では自己との葛藤、” Portrait of a Girl in Glass” と “Everything Stuck to Him” では自分の野心と家族への愛の狭間での苦悩が主題となっている。授業は学生による訳読を中心に進める。常軌の短篇のうちの一つについて、レポート(感想文［ワープロ原稿、用紙A４、40字X40行程度］）を提出してもらう予定。

【成績評価の方法】
筆記試験、教室での発表状況、課題レポートの提出状況、出欠状況を総合して評価する。

【教科書】
名和雄次郎・先川暢郎　編注『アメリカ青春小説選』桐原書店

【参考文献】
授業中に適宜指示する。

科　目　名			
英米文学と現代の諸問題－家庭問題			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	秋学期集中	4単位	岡　田　章　子

【講義概要・学習目標】
古くて新しい問題、家庭問題をJane Austen：Pride and Prejudice を読みながら考えるのが本講義の狙いである。Austenは牧師の娘として静かな田園に家族や友人と平安な一生を送った。彼女の描く世界は事件らしい事件もなく静かな日常の中に人間の心を繊細な目で観察したものである。この小説の家庭内の問題は現代の日本の激しく移り変わる社会にも通ずる問題で作品を読みながら考察したいと思う。

【講義計画】
1．家庭問題とは
2．18世紀のイギリス社会
3．Jane Austen 紹介
4．東西の家庭問題
5．自負と偏見　　1章ー6章
6．同上　　7章ー13章
7．同上　　14章ー20章
8．同上　　21章ー27章
9．同上　　28章ー34章
10．同上　　35章ー41章
11．同上　　42章ー48章
12．同上　　49章ー55章
13．同上　　56章ー61章
14．まとめ

【成績評価の方法】
試験、平常点

【教科書】
ジェーン・オースティン（中野好夫訳）自負と偏見 新潮社文庫

科　目　名			
英米文学と現代の諸問題－ゴシックの伝統			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	秋学期集中	4単位	日　下　隆　平

【講義概要・学習目標】
18世紀後半から19世紀前半において、「ゴシック復興」(Gothic Revival）という美術・建築面における流行現象がイギリスの大きな時代的特徴となった。その一例として、ピュージンによる国会議事堂の設計がある。政治的には、この頃は新興勢力と旧勢力の力関係が拮抗し入れ替わる時代でもあり、その時代の不確定要素が具体化されたとする見方もある。ゴシックの特徴は先ず美術、教会建築、庭園などの領域にみられ、文学作品に先んじて登場した。先駆的な小説ではウォルポールのものがある。この講義は、ゴシックの特徴を建築、絵画、文学作品などによってイギリスの時代的特徴を検討することを目標とする。

（授業方針）授業では建築、絵画などの写真も参照しながら、英文解説書を精読していきます。受講者全員に分担訳を報告・提出してもらい、最終的には全文訳をつくるつもりです。従って、報告日に欠席した場合、後で提出しても認めませんのでくれぐれも注意しておいて下さい。

【講義計画】
第１回　導入
第２回　ゴシックの語義
第３回　「ゴシック復興」の歴史的文脈
第４回　絵画にみるゴシックーゴヤとブレイク
第５回　ゴシック建築と庭園１
第６回　ゴシック建築と庭園２
第７回　ピラネージの廃墟
第８回　グランド・ツアーとアルプス
第９回　エドモンド・バークの「サブライム」
第10回　墓地派の詩：ロバート・ブレアー
第11回　ビデオによる作品鑑賞
第12回　ゴシックの政治的文脈
第13回　ゴシック建築とカトリック教会
第14回　オーガスタ・ピュジーンとカトリック精神
第15回　主なゴシックの思想家と作家
第16回　18世紀の精神的風土
第17回　コールリッジの『老水夫行』１
第18回　コールリッジの『老水夫行』２
第19回　コールリッジの『老水夫行』３
第20回　コールリッジの『クリスタベル』
第21回　宗教と超自然１
第22回　宗教と超自然２
第23回　ゴシック小説と読者層
第24回　ゴシック小説-シェリー夫人
第25回　ゴシック小説-アイルランドの場合
第26回　ゴシックのジャンル
第27回　まとめ
第28回　試験

【成績評価の方法】
試験と平常点による。

【教科書】
Stevens,David The Gothic Tradition.Cambridge Cambridge Univ.Press
配布します

【参考文献】
適宜必要な際には指示いたします。

科目名			
英米文学と現代の諸問題－性を演じる			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	春学期集中	4単位	小野良子

【講義概要・学習目標】

私たちは日常、何気なく「らしさ」を口にする。「私らしさ」「○○さんらしさ」「男らしさ」「女らしさ」、etc.「子供らしい」無邪気さ、「学生らしい」服装、「スポーツマンらしい」態度etc、はよく耳にする表現だ。しかし、「らしさ」とは具体的には何を示しているのだろう。「らしい」を決定する基準は何なのか。そもそも、その基準は誰が決めるのだろう。「私らしさ」は「私」が決めるのか。それとも、「私」を見ている友人、家族、周囲の人々が決めているのだろうか。

本講義では、「男らしさ」「女らしさ」といった「性」の役割と、「私らしさ」の関係について、シェイクスピア喜劇の映画作品を素材に使って考える。

【講義計画】

１、２：序論
３～11：「男らしさ」を演じる――男の服／髪とヒゲ／言葉／剣と力――Ｔ・ナン監督『十二夜』鑑賞と考察
12～20:「女らしさ」を演じる――理想の女と妻――Ｆ・ゼフィレッリ監督『じゃじゃ馬ならし』鑑賞と考察
21～29：「男っぽい女」と「女々しい男」――じゃじゃ馬／耐える女／恋する男――Ｋ・ブラナー監督・主演『空騒ぎ』鑑賞と考察
30：まとめ

【成績評価の方法】

１．小レポート：毎講時に記述、提出。
２．学期末レポート：課題研究。
１と２の総合評価で決定する。

【教科書】

プリントを配賦する。

【参考文献】

講義時に紹介する。

「演習Ⅰ」クラス・研究テーマ一覧

クラス	担当者	研究テーマ	ページ
01	辻　洋一郎	『リテラシーの基本』を学ぶ	57
02	荒木　英一	大学生活スタート！	57
03	井田　憲計	経済学、はじめの一歩	58
04	一ノ瀬　篤	日本経済入門	58
05	桂　昭政	現代の日本の雇用と経済社会について考える	59
06	厳　善平	新聞を読んで社会経済の動きを知ろう	59
07	佐賀　朝	現代社会の諸問題	60
08	滝田　和夫	経済学入門	60
09	竹原　憲雄	日本経済を考える	61
10	津田　直則	日本と世界について考える	61
11	中野　瑞彦	社会の動きから経済を体感しよう	62
12	中村　勝之	数字はすべてを物語る～簿記＆財務諸表分析入門～	62
13	藤田　香	経済学部入門	63
14	前田　治朗	社説を読む	63
15	松尾　純	大学に入学はしたけれども・・・・	64
16	望月　和彦	ディベートから入る学生生活	64
17	矢根　眞二	コミュニケーションの基礎と自主学習力の向上	65
18	吉田　恵子	新聞、映像から知る経済事情	66
19・20	梅田　百合香	朝日新聞「相談室」から社会問題を考える	66

科目名			
演習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担当者
01	通期	4単位	辻　洋一郎

【講義概要・学習目標】
入学おめでとうございます。
本来、「演習」科目は、課題について自分で調べ・考えたことを「発表し、みんなで討論する」場です。とはいえ、誰しもすぐにホイホイと思った通りに発表し、討論できるわけではありません。そこでこの「演習Ⅰ」では、次年次以降の演習科目で成果が上がるために必要な、①考え方の技術や②演習の作法を学習します。

【講義計画】
春学期最初の数回は、大学生活に慣れること、施設の紹介や使い方を学びます。慣れるにつれて、いろいろな教材（ゲームやビデオ、映画）を使って、思考の技術、表現の仕方の勉強をします。

【成績評価の方法】
出席を重視します。
やむを得ず欠席する場合は、事前に担当教員にメール（ytsuji@andrew.ac.jp）で連絡すること。

【教科書】
使いません。必要に応じて資料やプリントを配布します。

【参考文献】
必要に応じて講義中に指示します。

【備考】
＜AO入学＞対象

科目名			
演習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担当者
02	通期	4単位	荒木英一

【講義概要・学習目標】
身の回りのことや社会のことについて、映画を見たりニュースを読んだり、ざっくばらんに話しあいながら、経済学や経済問題への関心を深めていきましょう。情報センタや図書館をはじめとして、大学にあふれている「資源」の活用法についても、ガイダンスをしたいと思います。

【講義計画】
以下のようなことを適宜に組み合わせながら進めます。

* 世界や日本のニュースを読む
* 映画（DVD）を見る
* パソコンを活用する
* 英語のニュースも読んでみる
* 日本経済の輝かしい実績に感動する
* 新しい技術を体現したガジェットに感動する
* 日記（ブログ）をつける
* 趣味や自分について語る
* 新聞社説などを要約する
* 自分の意見をレポートにまとめる

などなど。

【成績評価の方法】
出席と平素の努力のみによって評価します。

科　目　名			
演習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
03	通期	4単位	井　田　憲　計

【講義概要・学習目標】
テーマ「経済学、はじめの一歩」
　大学生活を始めるにあたってのオリエンテーションの後、経済学を学ぶ意義や方法について基礎的なガイダンスを行う。
　少人数のゼミナール形式で、テキストの輪読、発表、討論を通じて、経済学部での大学生活に必要なノウハウと習慣を身に付けることを目指す。

【講義計画】
　　1．ガイダンス
Ⅰ．大学生入門
　　2．オリエンテーション
　　3．建学の精神（チャペルにて）
　　4．図書館ガイダンス
　　5～10．パソコン演習
Ⅱ．経済学部入門
　　11．テキスト（その1）について
　　12．レジュメ作成
　　13．報告と討論
　　14．書評作成
　　15～18.別のテキストで同様に
Ⅲ．経済学入門
　　19．テーマ選定
　　20．レポート作成
　　22．報告と討論
　　23～28．別のテーマで同様に

【成績評価の方法】
出席（無断欠席は許されない）[約30%]、
報告[約30%]、
レポート・成果物[約40%]
を総合（上記%で配分）して評価する。

【教科書】
佐々木俊尚 グーグルGoogle―既存のビジネスを破壊する― 文春文庫
（￥760+税）

【参考文献】
適宜指示する。

科　目　名			
演習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
04	通期	4単位	一ノ瀬　　篤

【講義概要・学習目標】
戦後の日本経済について、基本的な知識・用語、およびこれに必要な最小限の理論、の学習を目標とする。

【講義計画】
　三橋規宏・内田茂男・池田吉紀『ゼミナール日本経済入門』日本経済新聞社（最新版）を読みながら、基礎知識、基礎用語、基礎理論を説明する。
　ただし、学習の形式は、ゼミ参加者による「テキスト担当箇所のまとめと問題提起」およびそれに関する討論、教師による解説、という形をとる。

【成績評価の方法】
日ごろの報告および、質問などの発言を重視する。出席も同様に重視する。

【教科書】
三橋規宏・内田茂男・池田吉紀 ゼミナール日本経済入門 日本経済新聞社

科目名			
演習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担当者
05	通期	4単位	桂　昭政

【講義概要・学習目標】
日本の経済社会は90年代を境にして大きく変化した。比較的平等な横並び社会から縦並び社会あるいは格差社会へと変化した。それと歩調を合わせて雇用、働き方の面においても正社員とパート・派遣社員への二極化ないし格差が進行した。演習１ではこの変化の実態を勉強し、現在の厳しい経済社会についての認識を深めるとともにその対応について考えていきたい。

【講義計画】
２冊の教科書のうちまず『働くということ』をとりあげ、随時『縦並び社会－貧富はこうして作られる』を使用する。授業は上記テキストを題材に全員に報告してもらい、それをもとに討論していきたいと考えている。
それぞれの教科書の章別構成は次のとおりである。
『働くということ』
１章. 何のために
２章. 世代の摩擦の向こうに
３章. 不安と向き合う
４章. 会社との距離
５章. 伝える喜び
６章. 常識を疑い、壁に挑む
７章. 答えは悩みの中に
『縦並び社会－貧富はこうして作られる』
１章. 格差の現場から
２章. 読者の声を追って
３章. 格差の源流に迫る
４章. 海外の現場から
５章. 識者からの提言
なお、上記テキストの勉強の合間に小説等の読書の時間を設け、今後の諸君の知的能力の土台作りを考えている。

【成績評価の方法】
出席をベースに、報告、討論、レポートの評価を加味して判定する。

【教科書】
日本経済新聞社編　働くということ（日経ビジネス人文庫）日本経済新聞社

毎日新聞社会部 縦並び社会－貧富はこうして作られる 毎日新聞社

【参考文献】
授業中に指示する。

科目名			
演習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担当者
06	通期	4単位	厳　善平

【講義概要・学習目標】
日本経済の諸側面を詳細な統計データに基づいた分析の結果を勉強することを通して、経済が身近にあること、経済の姿を的確に捉えるために経済学という学問が非常に有効な道具であることを理解してもらう。これは本講義の目指す基本目標である。

【講義計画】
授業は基本的に教科書の内容構成に即し、各トピックを２回のペースで行う予定である。内容に合わせて映像を放映する予定がある。また、少人数のクラスなので、受講者が討議に参加する形の授業形態を取る。

・日本経済の全体像
・戦後日本の経済成長
・景気循環の姿とその捉え方
・ストックから見た日本経済
・雇用の変動と日本型雇用慣行の行方
・企業行動と日本型企業経営の行方
・産業構造の変化と将来のリーディング産業
・物価の変動とデフレの問題
・円レートの変動と日本経済
・経常収支と貿易の姿
・直接投資と空洞化をめぐる議論
・財政をめぐる諸問題
・経済再生の鍵を握る金融
・日本経済の構造改革
・人口構造の変化と日本経済

【成績評価の方法】
出席状況（50点）、授業の準備・参加状況（40点）、レポート（10点）とする。

【教科書】
小峰隆夫『最新日本経済入門　第３版』日本評論社

【参考文献】
授業中随時配布する。

科　目　名			
演習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
07	通期	4単位	佐　賀　　朝

【講義概要・学習目標】

この演習では、大学で学習・研究を行っていくための基本的な能力を身につけるため、現代の世界と日本をめぐるさまざまな社会問題を取り上げて、共同で学習、調査し、発表や討論を通じて理解を深めていく。その際、以下のような能力の獲得が重要である。

まず①論述的な文章を読み、その内容を正確に理解すること、次に、②特定のテーマについて調べるために文献や資料を収集し、整理・分析すること、さらに③そのようにして調べ、分析した結果やそれに対する自分の意見を、文章や発表の形で表現すること、その上で④他人との間で討論し、批判しあうことを通じて意見の相違や共通点を確認し、問題についての理解を深めること、である。

書くことや議論すること、あるいは自分で読み、調べ、自分の頭で考え、整理することなどを通じて、自分の疑問や意見を掘り起こし、深めていくことは、他人とは異なる自分を発見・創造し、豊かにしていくためにひじょうに大切な作業である。

１年間の演習を通じて、受講生それぞれが社会問題への関心を深め、自分が取り組むべき何らかの課題を発見することができれば、と考える。

【講義計画】

(春学期)

ある問題についての新聞記事や論説･論文などを読み、全員で、あるいは担当者を決めて、その要約や論点整理を行い、関連する資料を調べるなどしながら、疑問・批判なども提示する形で発表し、それを素材にグループごとに討論を行う。

場合によっては、各自の意見を文章化し、その文面・内容を相互に検討したり、討論の内容をまとめるなどの課題を追加する。

以上の行程を一つの基本サイクルとして作業を進め、まず他人の文章を正確に理解し要約すること、感想や疑問を持ち、それを意見や批判にまで高めること、討論をしながら自分の考えを深めること、論述的文章を書く能力を身につけること、などをめざす。

(秋学期)

基本的なサイクルは春学期と同じ形で進め、扱う文章の分量や内容をレベルアップするとともに、議論を積み重ねていくことを通じて、より内容の豊富な討論や文章作成をめざす。

＊なお、取り上げるテーマとしては、憲法や戦争･平和、環境問題、教育、福祉の問題から、少子化や若者の雇用問題などなど、様々なものが　考えられるが、受講生の関心も汲み上げながら設定していきたい。

【成績評価の方法】

出席・受講態度、ほぼ毎回提出してもらうワークシートのほか、発表、討論、小テスト、レポートなどを総合的に評価する。

【参考文献】

テキストは特に定めず、随時、プリントなどを配付する。
参考文献は、授業の中で随時、提示する。

科　目　名			
演習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
08	通期	4単位	滝　田　和　夫

【講義概要・学習目標】

この演習では二つのことを目標にしたい。一つは、これからの大学生活を送っていくのに必要な理解・表現能力を身につけることである。すなわち、論説や新聞を読んだり、あるいは人の話を聞いたりして、それを正しく理解して自分なりに要約することができるようにしたい。また、他人の考えを批判的に摂取・加工して自分の意見を形成し、それを書いたり話したりすることによって、他人に正確に伝えることができるようにしたい。もう一つの目標は、経済学部の学生として現代の社会・経済問題に多少なりとも馴れ親しむことである。経済学部に入ったものの、社会科学とか経済学とは何なのか、あまりよくわからないという諸君も多いことであろう。この演習を通じてそのイメージが多少なりともつかめるようになればよいと思う。

これらの目標に近づくために、この演習の前期では社会・経済問題を素材にして、論説や新聞記事を全員で読んでいく。そして、それを要約したり、関連資料を調べたり、発表したりしながら、全員で討論していきたい。また後期には、各人の研究テーマもとづく個人発表とそれに対する討論を行っていく。

【講義計画】

(前期)　はじめに数回、自己紹介や図書館、情報センターなどのオリエンテーションを行う。その後、毎回の演習において、社会･経済問題に関する論説や新聞記事を全員が読み、決められた報告者が事前にそれについて要約したり調べたりしてきた内容をレジュメにして報告し、全員で討論していく。また時々、指定した課題について全員にレポートを提出していただく。夏休み前頃には、各人は自分の研究テーマを設定し、夏休み中にその研究テーマに関する文献や資料を調査する。

(後期)　夏休み中の調査･研究を踏まえて､各人が自分の研究テーマについて調べてきたことを発表し、それに対する討論を行っていく。この作業を何度か積み上げることによって、最終的に各人がある程度まとまった分量の研究レポートを完成させるようにしたい。

【成績評価の方法】

出席、レポート、受講態度、報告、討論などを総合的に評価する。

【教科書】

特に定めず、随時プリントを配布する。

科目名			
演習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担当者
09	通期	4単位	竹原憲雄

【講義概要・学習目標】
経済学は難しいと思う人でも、経済格差とか、それが進む現在の景気回復については耳をかたむけていることが多い。そのうちの何人かは、経済格差は何だろう、どうしてそれが進むのだろうなどと、ちょっとまじめに考える。
実はこうした身近な経済の出来事への関心が、難しいと思っている経済学の入口になる。
しかし経済学は、経済の出来事をあれこれと並べたてるものではない。経済学は、ばらばらに見える経済問題のつながりとそのもとにある全体のしくみと流れ、そしてそれを動かしている原因を明らかにしようとするものである。
この演習では、こうした視点から現在の日本経済の実態・課題を考えてみる。

【講義計画】
1．図書館ガイダンス、パソコン演習、レジュメの作成・練習等、ゼミを進めるうえでの基本的な知識、スキルの修得。
2．経済記事、ビデオ教材等により、日常的な日本経済の課題を考える。
3．テキストの分担・報告により、体系的に日本経済を学ぶ。

【成績評価の方法】
ゼミへの出席を第1に、報告や討論、レポートの提出状況によって総合的に評価する。

【教科書】
未定。

【参考文献】
ゼミの中で紹介する。

科目名			
演習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担当者
10	通期	4単位	津田直則

【講義概要・学習目標】
テーマ：日本と世界について考える
日本と世界の社会・経済問題について、読む力、書く力、考える力を向上させることを目標とする。

【講義計画】
1）新聞・雑誌などの記事を読んで要約しまとめることを通じて書く力を養う。
2）社会・経済問題の与えられたテーマについて自分の意見をまとめ表現する力を養う。
3）取り上げる問題は、物価、環境、税金、宗教、年金、非営利活動、会社、エネルギー、思想など。
4）身近な問題としてとらえることから出発し、専門的、根本的な問題へと進める。

【成績評価の方法】
1）欠席が増えると成績評価は下がります。
2）短文のレポートへの取り組み姿勢が評価の中心です。

【教科書】
授業で資料を配布する。

科　目　名			
演習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
11	通期	4単位	中　野　瑞　彦

【講義概要・学習目標】
社会事象と経済は密接に結びついている。身近な事象を一つ取ってみても何らかの形で経済と結びついている。しかしながら、残念なことに、ほとんどの人が経済の仕組みを十分に理解しないままに生活している。一方で、経済はあまりに身近であるために、自分なりに「理解」していると思っている人も少なくない。本当にそうだろうか？この演習では、身近な社会事象を通じて経済学の基礎を勉強する。そのためには、社会的常識と思われる事柄も積極的に学習していかなくてはならない。演習参加者には、この演習を通じて、経済に関わる幅広い分野に注目する意識を養ってほしい。

【講義計画】
＜春学期＞
01 イントロダクション
02 情報センターガイダンス
03 図書館ガイダンス
04 大学での勉強方法
05 人口問題（1）少子高齢化
06 人口問題（2）労働環境
07 人口問題（3）若者の雇用
08 パソコン実習（1）Word
09 パソコン実習（2）Excel
10 これであなたもひとり立ち（1）生活
11 これであなたもひとり立ち（2）マネー
12 身近な経済問題を考える（1）グループ発表
13 身近な経済問題を考える（2）グループ発表
14 まとめ
15 中間テスト

＜秋学期＞
16 プレゼンテーションの手法
17 ビジネス
18 財政
19 物価
20 為替
21 貿易
22 産業構造
23 金融
24 地域経済
25 アメリカ経済
26 アジア経済
27 国際金融
28 環境経済
29 まとめ
30 期末テスト

【成績評価の方法】
演習への参加態度（積極性）40点、中間試験（春学期最終回）20点、期末試験20点、課題提出レポート20点。

【教科書】
追って連絡する

【参考文献】
適宜指示する。

科　目　名			
演習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
12	通期	4単位	中　村　勝　之

【講義概要・学習目標】
それなりの努力をして、自由を（本当の意味で）謳歌できる大学にせっかく入学できたのだから、思いっきり遊んでやろう…そういう「幻想」を根底から破壊し、来るべき大学卒業後に備えて今から力を蓄えるために、この演習は開講される。そのためにこの演習では２つの目標を掲げ、それに向かって邁進して行く予定にしている。

１つ目の目標は、何がしかの「資格」を取得することである。しかし聞こえは良くても実際には役に立ちそうにない資格も（思いの他）たくさんあるので、ここでは「簿記３級」の取得を目指す。その理由は、実際の企業活動がどんなことをしているのかを簿記の勉強を通じてイメージしてもらうことと、２つ目の目標を達成するのに必要不可欠の知識だからである。

２つ目は、就職活動する上で敵である企業の「実態を暴き出そう」とするための手法の習得を目指す。イメージが良さ気な企業だとしても、本当に（自分にとって）いい企業なのか不明な場合がほとんどである。それ以前に、自分が就職した後でもその企業が継続的に仕事していけるのか、言い換えるとそれだけ儲かっているのかを知る必要がまずある。

やって行くうちに分かってくるが、この演習は他の演習に比べるとやるべきハードルを意識的に高く設定している。しかし実社会の厳しさはこんなものではない。この点だけは肝に銘じて受講に臨んで頂きたい。

【講義計画】
※以下の順序で進めて行く。
①ガイダンス:目標設定（１回）
②大学生活の「いろは」の「い」: 図書館ガイダンス（１回）
③有名企業の新卒採用計画の実態を知ろう（２回）
④簿記３級対策（15回）
⑤経営分析入門（３回）
⑥レポート作成実習（６回）

【成績評価の方法】
①中間試験（春学期末に簿記の試験）
②期末レポート（秋学期末に経営分析に関する報告書）
③平常演習時の参加態度および小レポート
④簿記３級合格
※上記①～④を総合的に判断する。なお評価に「出席点」は含めない。

【教科書】
第１回演習時に指示する。

【参考文献】
必要に応じて指示する。

【備考】
演習情報などはホームページ（http://rio.andrew.ac.jp/~nakamura）を参照すること。

科目名			
演習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担当者
13	通期	4単位	藤田　香

【講義概要・学習目標】
経済学とは何か？

この演習では、身近な経済現象から経済学の基本的な枠組みについて学習します。

経済学は、何の役に立つのか？

経済に関する意味や仕組みを理解するのは「しんどい」です。しかしながら、ひとたび経済学の知識を身につければ、経済の複雑な問題の輪郭がはっきりしてきます。理解できれば、興味がわき、問題の本質を自分で考え、判断することも可能となるでしょう。

この演習を通じて、経済学部での大学生活をうまく過ごせるノウハウを身に着けましょう。

【講義計画】
Ⅰ　大学生入門

①　オリエンテーション
②　パソコン演習

Ⅱ　経済学部入門

①　レジュメ作成の練習
②　小論文
③　新聞の読み方

Ⅲ　経済学入門

①　教室での報告と討論
②　レポート作成

具体的な進め方については、第一回の講義の際に、説明する予定です。

【成績評価の方法】
1．出席
2．課題の提出等
1．及び2．より総合的に評価いたします。

（注意事項）
出席することは前提です。

社会常識やマナーを守って行動しない場合（私語、睡眠、携帯（メール）、飲食、遅刻、途中退出、内職、無断欠席等）は除籍いたします。

その上で、演習に対する取り組みの積極性（ただじっと座っているだけでは評価しません）、出席、報告、討論、レポート、場合によってはテストにより総合的評価します。

【教科書】
最初の講義で相談の上、決定します。

【参考文献】
必要に応じて、適宜紹介します。

科目名			
演習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担当者
14	通期	4単位	前田治郎

【講義概要・学習目標】
大学での学習スタイルは、高校までのそれとは大きく異なっており、とまどう人も多い。たとえば、決まった答えのない問題（だからこそ研究に値する）を取り上げ、自分独自の見解を見つけだしたり、レジュメ（概要）を提示して自分の意見をわかりやすく説明するプレゼンテーション能力が求められたりする。この演習では、新聞記事を素材にして、まず全員で要旨や論点の整理の仕方を勉強した後、参加者各人に興味のあるテーマ設定をしてもらい、その報告を積み上げた上で最後にレポート作成をしてもらう。

【講義計画】
第１回　講義概要の説明
第２回～第４回　図書館、情報センターなどのガイダンス
第５回～第８回　主要新聞の2008年年頭社説の読み比べ
第９回～第14回　重要問題に関する各社社説の読み比べ
第15回～第16回　各自のテーマ設定
第17回～第27回　設定テーマに関する報告の積み重ね
第28回　講義のまとめ

【成績評価の方法】
出席を中心とした平常評価（60点）と最後に作成するレポート（40点）で評価する。

科　目　名			
演習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
15	通期	4単位	松　尾　　純

【講義概要・学習目標】

いま、皆さんは、大学の経済学部に入学したけれども、これから先、どんな生活をおくり、どのように勉学していけば、卒業に必要な単位を無事取得でき、そして　4年後に結果として、どのような未来が開け、どのような職につくことができるのか、いろいろと心配されていることでしょう。

この演習Ⅰは、皆さんのそのような不安を解消して、出来るだけ早く大学生活に馴染むことができるように、いろいろな手助けをする場です。

この演習Ⅰが、学生生活一般・勉学・課外活動などの不安や心配事について、なんでも話し合える場になるようにしたいと考えています。

【講義計画】

1, 演習Ⅰ全体の概説。授業の進め方・成績評価の方法等のガイダンス。
2, 大学生活に馴染むためのプログラム――①。キャンパス見学。（5回程度）
3, 同上――②。カリキュラム・ガイダンス。
4, 同上――③。情報センターに行ってE-Mail・インターネット等を使えるようになろう。
5, 同上――④。図書館を上手に利用し情報を効率的に取得・利用できるようになろう。
6, 最近話題の社会問題について話し合ってみようⅠ――①。（6回程度）
　教師が提供する新聞・雑誌記事をテーマにディスカッションしてみよう。
　話し合ったことの要約（＝レジュメ）を作成してみよう。
7, 同上――②。
8, 同上――③。
9, 同上――④。
10, 同上――⑤。
11, 同上――⑥。
12, 最近話題の社会問題について話し合ってみようⅡ――①。（6回程度）
　学生が提供する新聞・雑誌記事をテーマにディスカッションしてみよう。
　話し合ったことの要約（＝レジュメ）を作成してみよう。
13, 同上――②。
14, 同上――③。
15, 同上――④。
16, 同上――⑤。
17, 同上――⑥。
18, 授業の中間総括。
19, 研究テーマを設定して共同研究をやってみようⅢ――①。（6回程度）
　学生数人がグループでテーマを設定して、共同研究をして、その研究結果を報告し、討論をしてみよう。
20, 同上――②。
21, 同上――③。
22, 同上――④。
23, 同上――⑤。
24, 同上――⑥。
25, 共同研究のレポートを作成をしようⅣ――①レポートの書き方を学ぶ。
26, 同上――②レポートを実際に書いてみる。
27, 同上――③レポートを完成させる。
28, 演習Ⅰ全体の総括。

【成績評価の方法】

出席回数や報告担当者になった場合の報告内容などの平常評価と学期末に提出してもらう共同研究のレポートとを総合評価する。

科　目　名			
演習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
16	通期	4単位	望　月　和　彦

【講義概要・学習目標】

テーマ：ディベートから入る学生生活

当ゼミは、ディベート専門ゼミです。ディベートとは、ある問題に対して賛成派と反対派に分かれて議論を戦わすゲームです。おそらくみなさんはこれまでディベートなんてしたことないと思います。そのためできるかどうか心配だと思っている人もいるでしょう。でも心配ありません。私はこれまで10年間、1回生のゼミでディベートをしてきましたが、みなさん熱心にディベートに取り組んでもらいました。

ディベートはゲームですので、勝ち負けがあります。それを判定するのはディベート担当者以外のみなさんです。司会進行やタイムキーパーも学生がするので、全員がいつもディベートに参加することになります。

どのようにディベートするのかについては、テキストを読めばわかりますし、ゼミの最初に説明を行い、ディベートのビデオも見てもらいます。それで十分わかります。

ディベートは、自分の意見をどんどん言えるので、おもしろい授業になります。なかには話すのが苦手という人もいると思いますが、ディベートは一人でするのではなく、グループで行うので心配はいりません。

本年度はディベートの合間に社会問題についてのテキストも読みます。また色々な社会活動にボランティアとして参加する機会も設けます。

ディベートすることにより、社会問題について関心が芽生えてきます。なぜ勉強するのかが分かってきます。自分の判断ができるようになります。このゼミを終えた頃には、世界観が変わった別の自分になっているかも知れません。

【講義計画】

第1回　導入その1　ゼミの説明、ディベートテーマ選定、班編制決定
第2回　導入その2　ディベートビデオ鑑賞　ディベートテーマ決定
第3回　導入その3　ディベートテーマ割当
第4回　ディベートの説明、テキスト輪読割当
第5回　図書館ガイダンス
以下2007年度のスケジュールを書きます。2008年度のディベートのテーマと順番は受講者に対するアンケート結果によって決定されます。
第6回　ディベート　「死刑制度」
第7回　ディベート　「いじめと管理教育」
第8回　ディベート　「有料化でゴミは減るか」
第9回　ディベート　「北朝鮮問題」
第10回　ディベート　「ゆとり教育」
第11回　テキスト輪読その1
第12回　ディベート　「クローン人間研究」
第13回　ディベート　「フリーターは損か得か」
第14回　ディベート　「日本人は働き過ぎか」
第15回　ディベート　「ゲームは子どもに有害か」
第16回　ディベート　「ひきこもりの原因」
第17回　テキスト輪読その2
第18回　ディベート　「脳死による臓器移植」
第19回　ディベート　「英語の第二公用語化」
第20回　ディベート　「日本の核武装」
第21回　ディベート　「少子化は食い止められるか」
第22回　ディベート　「安楽死」
第23回　テキスト輪読その3
第24回　ディベート　「女子高生売春」
第25回　ディベート　「消費税」
第26回　ディベート　「自殺」
第27回　ディベート　「学級崩壊」
第28回　テキスト輪読その4

【成績評価の方法】

出席、発表内容、ディベートの勝敗、提出物によって成績評価を行う。

【教科書】
望月和彦 ディベートのすすめ 有斐閣
山田真哉 さおだけ屋はなぜ潰れないのか 光文社

科目名			
演習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担当者
17	通期	4単位	矢根眞二

あ行

【講義概要・学習目標】
1 これからの大学・社会生活を楽しむのに必要な「コミュニケーション技術と自主学習能力の養成」が演習テーマです
2 まず春学期は,「My HP」作成を通じて「読む気にさせる書く技術」を自覚し,「言われたこともでけへん」からの脱却を目指します
3 次に秋学期には,「ディベートゲーム」を通じて「論理的に話す技術」を高め,「言われたことしかでけへん」からの脱却を目指します

【講義計画】
演習内容は以下の春学期Aと秋学期BのPartに大別されます
1 演習目標・学習方法・成績評価は？（演習概要）
2 Part A「言われたこともでけへん」からの脱却
3 A 1 図書館ガイダンス（My Life Plan 提出）
4 A 2 フォルダ作成とメール交換（T 1）
5 A 3 仮想株式投資開始（T 2）
6 A 4 My Life 完成（T 3）
7 A 5 Word 機能（T 4）
8 A 6 My Disc 完成（T 5）
9 A 7 HP作成（T 6）
10 A 8 FTPと投資中間ランキング（T 7）
11 A 9 HP装飾（T 8）
12 A10 ディベートゲーム見学
13 A11 投資成果とWeb評価（T 9）
14 A12 春学期成績評価確認とクレーム処理
15 Part B「言われたことしかでけへん」からの脱却
16 B 1 ディベートテーマと役割分担の決定
17 B 2 パワーポイント講習（T10）
18 B 3 ディベートゲーム１
19 B 4 ディベートゲーム２
20 B 5 ディベートゲーム３
21 B 6 ディベートゲーム４
22 B 7 ディベートゲーム５
23 B 8 ディベートゲーム６
24 B 9 対抗ディベート見学
25 B10 プレゼン資料作成（T11）
26 B11 プレゼン評価（T12）
27 B12 対抗ディベートまたはディベートの課題
28 秋および総合成績評価確認とクレーム処理

【成績評価の方法】
出席および春秋各学期の課題への取組と内容を総合的に判断して決定します。「My HP」や「ディベートゲーム」を含む課題の詳細については開講時の教員サイトを参照して下さい。
http://rio.andrew.ac.jp/~yane/

【教科書】
望月和彦 ディベートのすすめ 有斐閣選書
秋学期のディベートゲームの考え方とテーマ・資料集です

【参考文献】
野口悠紀雄（2002）『「超」文章法』中公新書

【備考】
春学期のパソコン時代の文章の書き方マニュアルですが，本学の「論述作文」や「経済情報処理演習」か「パソコン利用」等を履修するのも効率的な学習法だと思います

科　目　名			
演習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
18	通期	4単位	吉　田　恵　子

【講義概要・学習目標】
この演習の目標は新聞記事から経済状況を読み取る能力を養うことである。毎回配布する新聞記事からレポートを作成する力を養う。

【講義計画】
ガイダンス・オリエンテーション
簡単な経済用語の説明
指定した新聞記事の読解
レポートの作成

【成績評価の方法】
出席、授業態度、レポートで総合的に判断する。

科　目　名			
演習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
19 20	通期	4単位	梅　田　百合香

【講義概要・学習目標】
朝日新聞生活面に「相談室」というお悩み相談の欄があります。これは、一般の人の様々な悩みに対し、個性的な４名の回答者が月一で担当しアドバイスをするコーナーです。このゼミでは、ゼミ生にこれまでの「相談室」の記事を調べて報告をしてもらい、討論をします。質問者の悩みの多くは私たちが共通して持ちうるものであり、そうした身近な問題から、回答者のコメントの可否を検討し、質問者と回答者の背景にある日本社会の問題へと深く切り込むことによって、問題の本質を考えます。

【講義計画】
各班に分かれ、担当班は『朝日新聞』「相談室」の過去の記事から月４回分の内容を調べ、報告します。その際、各班のメンバーは、以下のことについて自分の意見を報告し、そのあと全体で討議します。
①質問者の悩みの要旨の説明。
②回答者のコメントについての説明。
③質問者の悩みの本質、背景、問題の指摘。
④回答者のコメントの可否の指摘（コメントに対する支持・不支持の表明）
⑤質問者と回答者とが共有する点と相違がある点の確認。
⑥質問者と回答者の両者の背景にある日本社会の問題点の指摘。
⑦問題の本質の解明と展望の提示。

なお、議論の発展と進化にともない、回答者の著作や関連記事などを合わせて調べていき、討論の幅を広げていきます。

【成績評価の方法】
ゼミへの出席、報告のよさと討論への積極性から総合的に評価します。

【参考文献】
適宜紹介します。

「演習Ⅱ」クラス・研究テーマ一覧

クラス	担当者	研究テーマ	ページ
01	津田　直則	現代資本主義社会における営利と非営利について考える	68
02	中村　勝之	KJ 法的文章理解法	68
03	大澤　健	グローバリゼーション	69
04	吉川　真裕	株式投資を学ぶ	69
05	吉川　真裕	金持ち父さんに学ぶ	70
06	阿部　秀二郎	経済学を需要から考える	70
07	松本　誠	地域政策とまちづくりを考える（自分を語る能力を身につける）	71
08	田村　剛	里山の保全とボランティア活動	71
09	三原　裕子	世の中謎だらけ！？～謎ならば調べてみよう世の中の仕組み～	72
10	山田　雄久	日本経済と人材育成	72
11	道上　真有	世界の経済、BRICs(ブリックス)について考える	73
12	浦出　俊和	環境問題を考える	73
13	一ノ瀬　篤	株価・株式市場の基礎知識	74
14	谷口　和久	制度と進化の経済学	74
15	佐々木　和子	現代史を考える	75
16	竹原　憲雄	「財政・アレコレ」	75

科　目　名			
演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
01	通期	4単位	津　田　直　則

【講義概要・学習目標】
テーマ：「現代資本主義社会における営利と非営利について考える」
現代は歴史的転換期にある。営利と非営利の視点から現代社会のさまざまな問題を考えることにより、時代の流れや特質について理解を深めることを目的とします。

【講義計画】
1）資本主義と呼ばれる現代経済の問題点を「営利」の視点から検討する。また、新たな時代の潮流として発展している非営利活動の意味や本質を検討する。
2）考えるテーマ：市場と政策、競争と協力、資本と労働、自由と規制、私益と公益、私欲と倫理性、私権と公共性、もの・かねと非営利価値、営利事業とボランティア活動、株式会社と非営利組織、仏教とキリスト教、唯物論と唯心論等々。
3）与えられた資料やテーマについて短文のレポートを提出していただき、それを材料にして議論を深めていきます。
4）地域貢献のボランティア活動紹介し参加を勧めます。

【成績評価の方法】
1）短文のレポート提出が多くあります。レポート作成への姿勢は最も重要な評価の対象です。
2）授業への欠席が増えると成績評価は急速に低下します。
3）地域貢献のボランティア活動への参加は評価にプラスです。

【参考文献】
資料は授業で配布します。

科　目　名			
演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
02	通期	4単位	中　村　勝　之

【講義概要・学習目標】
「暇」であるのは人間最大の武器である。暇だからこそ色んな事にチャレンジできるし、色んな考えも湧いてくる。持て余す位ならば暇なんぞいらない。１年かけて「本を読む」トレーニングを積んでみないか。この演習はそのために提供される。
この演習での目標は２つ。参加者が（１）論理＆推理力を獲得する。（２）コトバの真の意味を体得する。これらは今後のあらゆる局面で必ず必要になる。それを今のうちから身につけておこう。

【講義計画】
この演習を通じて「KJ法」という手法を用いる。具体的にはテキストの該当箇所を精読し、その中から「キーワード」を考えられるだけあげてもらう。次にあげたキーワードから、幾つかの共通項で「グループ化」する作業を行う。最後にグループ化された共通項を論旨にそって結びつけ、それを「フローチャート」という絵にしていく。
なおこれら一連の作業は、参加者全員で行う。私の趣味からして出席点で受講生を「釣る」ことはしないが、作業に参加できなければ、以降の作業に参加しにくくなることは覚悟していただきたい。

【成績評価の方法】
①基本は、演習初期段階と最終段階で行われる「テスト」の出来栄えで評価する。
②①に対する加点措置として、秋学期を中心に何度か「小レポート」を要求することがある。
③出席状況は成績評価に一切反映されない。

【教科書】
渡部昇一『発想法　リソースフル人間のすすめ』講談社現代新書634

【参考文献】
川喜田二郎（1967）『発想法』中公新書136
川喜田二郎（1970）『続・発想法』中公新書210

【備考】
演習情報についてはホームページ（http://rio.andrew.ac.jp/~nakamura/）を参照すること。

科目名			
演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担当者
03	通期	4単位	大澤　健

【講義概要・学習目標】
21世紀の経済を語るときに、最も重要なキーワードは「グローバリゼーション」です。この講義では、グローバリゼーションを素材にしながら、現在の経済について考えていきます。
この講義は、ゼミ形式で行うことによって受講生の「コミュニケーション能力」の向上を目指しています。「内容を理解する」「まとめる」「伝える」「議論する」といった基本的な能力を身につけることで、コミュニケーションを通じて「考え」を発展させる方法を習得しましょう。

【講義計画】
【春学期】
①ビデオ学習
グローバリゼーションに関するビデオを見ながら、グローバリゼーションについての基本的な知識を身につけましょう。
②ディベート学習
グローバリゼーションを素材にしながら、議論する方法を身につけましょう。

【秋学期】
③講読
グローバリゼーションに関する本を読んで、その内容について議論できる力を身につけましょう。

【成績評価の方法】
平素の授業態度によって評価する。

【教科書】
受講生の意向に従って、決定します。

【備考】
テーマ：グローバリゼーション

科目名			
演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担当者
04	通期	4単位	吉川　真裕

【講義概要・学習目標】
株式会社の仕組みや株式市場の仕組みを学習し、インターネットを使ったシュミレーション（投資ゲーム）を通じて株式投資を自分で行えるようになることを目的とする。
株式会社や株式市場、株式投資を理解することは現代の社会を理解する上で不可欠なだけでなく、安定した老後の生活を送るためにもなくてはならないものである。銀行預金や国債だけではインフレの生じやすい現代の世の中で長期にわたって購買力を保持することは困難である。また、リスクをとらない活動ばかりでは経済成長も限られてしまう。株式投資はギャンブルにもなるが、使い方を間違わなければ有利な資産運用方法であり、そのことを知っているのといないのでは大きな差がついてしまう。
なお、デイトレードで生活していこうと考えているような人に直接役立つというような内容ではない。

【講義計画】
前期には、グループごとに分かれてテキストの内容を発表してもらい、その内容について議論していく形で進める。それと同時に、各自に株式投資のシュミレーションを行ってもらう。
後期には、株式投資に役立つとされる情報や指標を紹介し、再び各自が株式投資のシュミレーションを行い、その成果を発表してもらう。後半ではファイナンス理論からみた株式投資について解説する。
テキストの構成は以下の通り。
1．株式会社とは何か
2．会社経営の仕組みはどうなっているか
3．「お金の流れ」から「資金調達」まですべて
4．これからの会社はどう変わるのか
5．給料・ボーナスの仕組みから勤務形態、年金まで

【成績評価の方法】
①授業態度と②株式投資シュミレーションに関するレポートに基づいて評価する。授業に出席するだけでなく、自分でいろいろと調べて試行錯誤しながら株式投資シミュレーションに挑戦するという姿勢で受講してほしい。

【教科書】
高橋元『「株式会社」のしくみがわかる本』、三笠書房（知的生きかた文庫）、533円+税。なお、この本は品切れのため、コピーを配布するが、興味のある学生は古本屋か、ネット書店（アマゾン等）で探してほしい。

【参考文献】
図書館にある指定図書。

科　目　名			
演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
05	通期	4単位	吉　川　真　裕

【講義概要・学習目標】
世界的なベストセラーであるロバート・キヨサキの『金持ち父さん』シリーズの一冊をテキストとして、世の中の仕組みについて考えることを目的とする。なお、後期にはテキストの考え方をより深く理解するために、著者が考案したボードゲーム『キャッシュフロー101』を全員でプレイしてもらう。
「よく勉強して、良い学校を出て、良い会社に勤めることがお金持ちになることにはつながらない」という著者の主張は、勉強しなくてもお金持ちになれるということではない。学校では教えられない「お金」に関する勉強が必要であるというのが著者の主張である。あなたも「金持ち父さんの世界」を覗いてみませんか？

【講義計画】
以下の順でテキストに沿って、発表と議論を行う。
1．ダビデはなぜ巨人ゴリアテに戦いを挑んだか
2．若くして豊かに引退する方法
3．なぜできるだけ早く引退するのがいいのか
4．私はこうやって早期引退を実現した
5．どうしたら早く引退できるか
6．頭脳のレバレッジで現実を広げる
7．あなたは何が危険だと思うか
8．仕事量を減らして収入を増やす
9．金持ちになる一番の近道
10．あなたのプランは遅いか、早いか
11．豊かに未来を見ることのレバレッジ
12．一貫性のレバレッジ
13．童話のレバレッジ
14．気前よさのレバレッジ
15．習慣のレバレッジ
16．あなたのお金のレバレッジ
17．不動産のレバレッジ
18．紙の資産のレバレッジ
19．Ｂクワドラント・ビジネスのレバレッジ
20．とっておきのヒント
21．最終試験
22．やり続けるにはどうしたらいいか
23．人生の豊かな恵みを受け取る

【成績評価の方法】
授業態度によって評価する。
事前にテキストを読んできて、議論に参加することが単位取得の条件であるので、意欲のある学生の参加を望む。

【教科書】
ロバート・キヨサキ、シャロン・レクター『金持ち父さんの若くして豊かに引退する方法』筑摩書房、2003年、2200円+税。

【参考文献】
『金持ち父さん 貧乏父さん』筑摩書房、2000年。
『金持ち父さんのキャッシュフロー・クワドラント』筑摩、2001年。
『金持ち父さんの投資ガイド 入門編』筑摩、2002年。
『金持ち父さんの投資ガイド 上級編』筑摩、2002年。
『金持ち父さんの子供はみんな天才』筑摩、2002年。
『金持ち父さんの予言』筑摩、2004年。
『金持ち父さんの金持ちになるガイドブック』筑摩、2004年。
『金持ち父さんのサクセス・ストーリーズ』筑摩、2004年。
『金持ち父さんのビジネススクール セカンドエディション』マイクロマガジン、2004年。
『金持ち父さんのパワー投資術』筑摩、2005年。
『金持ち父さんの学校では教えてくれないお金の秘密』筑摩、2006年。
『金持ち父さんの起業する前に必ず読む本』筑摩、2006年。
以下のサイトに最新の情報がある。
英語ホームページ（http://www.richdad.com）
日本語ホームページ（http://richdad-jp.com/top.html）

科　目　名			
演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
06	通期	4単位	阿　部　秀二郎

【講義概要・学習目標】
演習の目的として、コミュニケーション能力の向上を、基礎的な演習の目的として少人数のための読解能力・読み書き能力の向上を目的とします。経済学の演習として、最近の経済がどういう状況にあるのをを読み解き、解決するためには何が必要かを考えながら、知識を獲得する方法について学修したいと考えます。

【講義計画】
1．経済学についての考え方を議論します。
2．教科書を利用して、正確に読んでもらったり、他人に上手に説明したりする方法について議論します。
3．教科書の内容を深く把握するために、教科書以外の資料を利用して比較します。資料の検索方法についても考えます。
4．最終的には、教科書を通じて学んだ内容から、自分の視点を深めたものを議論しあい、総合的な能力を高めたいと思います。

【成績評価の方法】
初回に皆さんと一緒に決めます。私の考え方を紹介し、その考え方に対して皆さんが、加えるべきであると考える点を指摘してもらいます。その考え方を含めて考えます。ちなみに現在考えている配分は、出席点20、報告・発表点40、読み書き・読解点40です。詳細は授業で・・・

【教科書】
松原隆一郎 消費資本主義のゆくえ 筑摩書房

【参考文献】
適宜指導します。

【備考】
主体的に勉強をしていくことができるように、考えていきたいと考えます。

科目名			
演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担当者
07	通期	4単位	松本　誠

【講義概要・学習目標】
21世紀社会は、地方自治体を中心とした分権型社会が日本でも急激に進む。その中心的課題となるのは、地域が自立できる地域政策と住民主体のまちづくりを進める住民自治である。
こうした、新しい地域政策とまちづくりを進めるための課題は何か。本演習では、新しい地域政策のあり方を学び、新しいまちづくりに取り組んでいく課題を、多彩な実践事例から学ぶことをめざす。
担当教員は長年にわたり新聞記者として地域づくり、まちづくり、地方自治の現場をジャーナリストの視点から観察し、報道・評論するとともに、市民が担うまちづくり活動を実践してきた。幅広い視野から、新しい社会のあり方や学生諸君のアプローチの仕方をともに学び、力をつけていきたい。
授業の中では、作文やレポートの書き方を習熟するための添削指導なども重視し、社会人としての基礎的素養も身に付けることを目標とする。

【講義計画】
本演習では、上記の目標を達成するために、以下のプロセスによって演習を進める。

1．テキストを読み込みながら、ポイントを整理する。
2．各回の演習ごとに、その回の担当者が担当した部分をレジュメにまとめて報告する。
3．報告を聞いて、出席者全員で問題点や疑問点を出し合い、質疑応答の形で議論を進める
4．教員が報告内容や出席者の発言に対してアドバイスや解説を行い、その日のテーマを確認する。
5．報告者は、その日の議論を集約し、次回の演習の際に文書にまとめて報告する。
6．学生諸君の日程の都合がつけば、街に出て暮らしの現場からの学び方を体験するフィールド学習も行う。

【成績評価の方法】
期末のレポートのほか、授業中の発表や理解度等を加味して評価する。

【教科書】
田村　明 まちづくりの実践 岩波新書
神野直彦著　「地域再生の経済学」(中公新書)

神野直彦 地域再生の経済学 中公新書

【参考文献】
田村　明著　「まちづくりの発想」(岩波新書)
地域情報会議編著　「地域の価値を創る」(時事通信社)
川村健一+小門裕幸著　「サステイナブル・コミュニティ」(学芸出版社)
松本　誠著　「市民が変える明石のまち」(文理閣)

科目名			
演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担当者
08	通期	4単位	田村　剛

【講義概要・学習目標】
高度経済成長期以前の里山は、薪炭生産や肥草採取など、人々の生活において重要な役割を果たしていた。しかし、大規模土地開発や石炭から石油への転換、木材輸入の自由化などが原因で里山の荒廃が進んでいる。
現在、里山の価値が見直され、市民団体やNPOなどの様々な団体が中心となり、里山の再生・維持・保全に取り組み、これを通じて里山周辺地域の活性化を図ろうとする動きが広がっている。
本演習では、文献を輪読することにより、里山とは何かについて考える。さらに実際に里山活動へ参加したり、ボランティア団体が里山でどのような活動をしているかを知ることにより、これから里山をどのように維持管理していくかについて考えていく。

【講義計画】
本演習では、文献の輪読と里山の取り組みへの参加の二本立てで行う。文献の輪読に関しては、1冊のテキストを完全に理解するまで読むという方向で進める。
具体的には、まずテキストを輪読した後、報告担当者にレジュメを用意してもらい、それに基づいて報告してもらう。次に報告担当者が中心となり、各出席者に意見を出してもらい、みんなで議論を行う。

【成績評価の方法】
出席状況、報告内容やレポートの出来具合等を考慮して総合的に評価する。

【教科書】
田中淳夫 里山再生 洋泉社

【参考文献】
演習時に随時指示する。

科　目　名			
演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
09	通期	4単位	三　原　裕　子

【講義概要・学習目標】
自分が興味のある事を調べるためには、
具体的に何から始めればよいのか？
どこまで掘り下げて調べればよいのか？
自分自身が「理解した！」と判断できるのはどのような時か？
などなど、ある物事を調べて、さらにそれを他人に教えるとなれば、気の遠くなるような下準備が必要になります。
さらに、授業のレポート提出ではごまかせたとしても、働きだしてからの報告書作成ではネットからの「コピー＆ペースト」は決して許されません。
こうなると自ら資料や文献を読みあさってまとめるしかありません。しかしながら、大学四年間で「調べてまとめる」方法がわからないのに、いきなり内定をもらった次の日に出来るようになる訳がありません。
そこで、この演習では手始めとして１年間じっくりとかけて、自らが興味を持った問題をまずは自分自身が理解し、さらにはそれを他人に理解してもらうために、どこまで問題を掘り下げて調べる必要があるのかを気づいてもらいたいと思います。

【講義計画】
1　平易な文献を読むことで、読み方およびまとめかたを身につけます。
2　１.と同時に自らが関心のあるテキストを選びます。
3　選んだテキストに沿って、団体および個人でゼミ発表を行います。

【成績評価の方法】
１．出席状況
２．ゼミ報告姿勢および参加姿勢
３．必要に応じてレポート提出を課す場合も有

【参考文献】
池上彰『おしえて！ニュースの疑問点』ちくまプリマー新書（047）　2006年
西林克彦『分かったつもり　読解力がつかない本当の原因』光文社新書（222）　2005年

科　目　名			
演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
10	通期	4単位	山　田　雄　久

【講義概要・学習目標】
大学で経済学を学ぶにあたって、企業内教育や学校教育が果してきた役割について考えます。時代に応じて変化してきた教育の役割を正しく認識することで、現代社会で求められている確かな「学び」の将来について展望します。

【講義計画】
授業にあたっては、テキストを参加者が読み進めていき、テーマを定めて自由に発言し、意見を述べ合う形で進めていきます。また実業教育の歴史についても取り上げ、大阪の適塾や企業博物館に出かけて実地での学習にも力を入れる予定です。そのための準備として、テキストだけでなく、関連する資料や情報を授業中に参加者へ提供していきます。また、休み中の課題としてテキスト以外の本を読み、その内容報告をしていただきます。

【成績評価の方法】
授業への参加度と、プレゼンテーションの内容から総合的に評価します。テストやレポートは基本的にありませんが、内容報告の際には必ず報告資料の作成をお願いします。

【教科書】
猪木武徳『学校と工場―日本の人的資源―』（コピーを配布）

【参考文献】
金子元久『大学の教育力―何を教え、学ぶか―』ちくま新書、2007年

科目名			
演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担当者
11	通期	4単位	道上真有

【講義概要・学習目標】

世界の経済，BRICs（Brazilブラジル，Russiaロシア，Indiaインド，China中国）の経済について，さまざまな本を読んで勉強します。2050年にはこの４カ国は，アメリカ，日本，イギリス，イタリア，ドイツ，フランスを抜いて世界経済のトップに躍り出ると予想されています。世界経済において重要な国となったこれらの国のことについて学びながら，読解力，情報収集能力，情報分析力，最新の国際経済情報を同時に獲得することを目標としています。

まずはこれらの４カ国について慣れ親しみながら知識を増やしていくことを目標にします。ビデオやDVDも使ってイメージを作ってもらおうと思います。題材は経済だけに限らず，音楽，映画，美術，文学等，幅広く取り上げたいと思います。

テキストを使って進めていきますが，学生たちの希望も問いたいと思います。今回指定したテキストの中で，とくにアマルティア・センは，インドの開発経済学者でノーベル経済学賞を受賞した学者です。彼の著作を読むことで，インド経済についてだけでなく，センの開発経済学や貧困を克服するにはどうすればよいのか，という世界経済全体にかかわる問題についても同時に勉強できる予定です。このほか，ロシア，ブラジルについても文献を読んで学んでいく予定です。

【講義計画】

１中国,2インド,3ロシア,4ブラジル，という順番でテキストに指定した本を使って進めていきます。

- 指定された箇所を全員が読んでまとめてきてもらいます。
- 授業中に読んできた箇所について教員が投げかける質問に答えてもらいます。分からないところはどんどん出すことも大切です。
- 少し力がついてくれば、担当者を決めて，指定された箇所についてレジュメを作成し，みんなの前で説明してもらいます。他の学生は，発表者に質問をしてもらいます。
- さらに力がついてくれば,4カ国のうちどれかひとつ自分の関心のある国を選んでもらい、その国の経済について本や記事を集めてその内容をまとめ，自分の意見も付け加えて発表してもらいます。

他の人に納得してもらえるように説明するには，深い理解が必要です。そのためには他の参考書や辞書などを自分で読んで調べることも必要になります。資料の探し方，集め方は指導します。

この他，参考となるビデオやDVDを使って理解を深めることも計画しています。

授業では全員がどんな意見でもいいので，恥ずかしがらずに活発に発言するにぎやかなものとなることを目標とします。

【成績評価の方法】

出席点と演習中の課題レポートの評価とで総合的に判断します。
学期末の試験や学期末提出のレポートはありません。
与えられた課題をこなしているかどうか、また演習中に積極的に発言し議論を沸かせる態度は評価されます。

【教科書】

日本経済新聞社 中国 大国の虚実 （日経ビジネス人文庫）日本経済新聞出版社
日本経済新聞社 インド 目覚めた経済大国 （日経ビジネス人文庫）日本経済新聞出版社
アマルティア・セン著，大石りら訳 貧困の克服 集英社新書

【参考文献】

アマルティア・セン著，東郷えりか訳『人間の安全保障』集英社新書,2006年
このほか，ロシアやブラジルの文献など授業中に紹介します。

科目名			
演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担当者
12	通期	4単位	浦出俊和

【講義概要・学習目標】

「環境問題」は、今や世界全体にとって重要かつ差し迫った課題であることは周知の事実である。TVや新聞の報道においても、数多くの環境問題が取り上げられている。しかし、我々は本当に「事実」を理解しているのだろうか？単に「知っている」だけであり、本当に「理解」しているかは疑問である。本演習では、「環境問題」に関わる世間一般とは異なる意見を敢えて取り上げ、改めて「環境問題」について考えていく。

本演習では、テキストの輪読と報告、およびレポートの作成を通じて、読解力・プレゼンテーション能力・文章作成の向上を図ることを課題としてる。さらに、参加者の討論への積極的な参加を重視する。

【講義計画】

前期では、基本的には、テキストを輪読し、分担報告と討論を順番に行ってもらい、その後、レポートを作成してもらう。

後期には、参加者毎にテーマを設定し、プレゼンテーションをしてもらったり、新たなテキストを用意する予定である。

また、前期・後期とも、テキスト以外に、ビデオを見たり、適宜必要な文献を読んで、同じく討論を行った後に、レポートを作成してもらう予定である。

詳細については、初回に指示する。

【成績評価の方法】

出席状況、報告内容、レポートに加えて、授業参加への積極性（発言機会・内容等）を加味して総合的に評価する。

【教科書】

武田 邦彦 環境問題はなぜウソがまかり通るのか 洋泉社

【参考文献】

必要に応じて演習の中で紹介する。

科　目　名			
演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
13	通期	4単位	一ノ瀬　　篤

【講義概要・学習目標】
株式、株式会社、株式市場について、基礎的知識および用語を学習する。

【講義計画】
はじめの３回では、基礎問題について担当者が講義を行い、それに対する質疑・討論を行う。
４回目以降は下記のテキストを読む。参加者はテキストの担当箇所をレジメにまとめ、疑問点や問題点を指摘する。

【成績評価の方法】
日ごろの報告、質問等の発言を重視。また、出席も同様に重視する。

【教科書】
日本経済新聞社（編）株価の見方 日本経済新聞社

科　目　名			
演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
14	通期	4単位	谷　口　和　久

【講義概要・学習目標】
日本はこの50年間に実質GDPは約10倍になり、世界の他の国々と比べても、とても豊かな暮らしのできる社会になりました。しかし、少子高齢化問題や世界的には地球温暖化問題など21世紀を担う皆さんが取り組まなければならない新たな問題が生じています。また、身近になりつつある電子社会は新しい制度を生み出しています。例えば、企業はインターネットで事業を拡大し、消費者は電子ショッピングをするようになりました。決済には従来の貨幣ではなく、電子マネーが使われています。このような進化する複雑な経済を「進化経済学」の視点から考察し、筋道を立てて考える力を養っていきます。また、プレゼンテーションの力がつくように積極的に報告してもらいます。

【講義計画】
基本的には、テキストの輪読と報告という形式で進め、必要に応じて関連文献も読んでもらいます。分からない点は、積極的に自分で図書館の文献などを調べ、報告の要旨を作成し、発表してもらいます。能動的・積極的に参加することで、調査・報告・発表の力が自然と養われていきますが、ただ座って他の発表者の報告を聞いているだけでは力がつきません。そこが、演習が講義とは異なる点で、またおもしろいところです。

【成績評価の方法】
作成した報告要旨、発表の方法や討論の内容など、演習への積極的な参加と熱意によります。

【教科書】
江頭進 進化経済学のすすめ 講談社現代新書

【参考文献】
進化経済学会編、『進化経済学ハンドブック』、共立出版、2006
B.シャバンス著、宇仁宏幸、中原隆幸、斉藤日出治訳『入門制度経済学』、ナカニシヤ出版、2007

科目名			
演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担当者
15	通期	4単位	佐々木　和　子

【講義概要・学習目標】
激動の二一世紀、中国、インドの台頭、不安定な中東情勢など世界各地で、さまざまな出来事がおこっている。そして、この世界での出来事がすぐに日本国内に影響を及ぼす時代である。
この複雑な世界情勢を読み解くための一つの手がかりが、歴史を振り返ることである。この演習では、前・後期を通じて、国内外の現代史の基礎知識を理解することを目指す。

演習形式の授業とし、お互いの意見を出しあい、深める場とする。テキストを読み解く力の育成を第一とする。自分が理解するだけでなく、さらに人に伝えられるところまで内容を読み取り、まとめる力も目指していく。

【講義計画】
前期
国際連合の成立、東西冷戦、冷戦の崩壊、湾岸戦争など、世界の第二次世界大戦後の出来事を振り返ってみよう。

後期
第二次世界大戦と日本に視点を移し、基礎的学習おこなうとともに、アメリカと日本、アジア各地と日本の関係をみていこう。

テーマ毎に輪読形式で、テキストを読んでいく。
順次報告をおこなうことで、テキストの内容を人に伝わるようにしていく。議論を通じて、考えを深めていく。自分の関心から、課題をさぐっていくこともおこなう。

【成績評価の方法】
出席・課題提出・ゼミ発表など平常点を重視する。

【教科書】
池上彰 そうだったのか現代史 集英社文庫
必要に応じてその他の資料の印刷、配布をおこなう。

【参考文献】
池上彰『そうだったのか現代史パート２』集英社
池上彰『そうだったのか中国』集英社
池上彰『そうだったのかアメリカ』集英社

その他、適宜授業中に指示する。

科目名			
演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担当者
16	通期	4単位	竹　原　憲　雄

【講義概要・学習目標】
ここのところ、財政に関係したニュースがデカデカと取り上げられることが多い。年金記録問題、ガソリン税率の据え置き、消費税の引き上げプラン、生活保護費のカットなどなど。これを見た感想は、庶民生活からするとどうも有難くないことが多いようだが、本当のところは難しそうで分からない。日常生活に大きくかかわりそうだが、これからどうなるのか、どうしたらいいのか、いよいよ分り辛い。それならもっと順序立てて考えていけば、分かると思うのだが・・・。
こうしたもっともな感想に少しでも答えられるように、ややこしいと思う財政がもっと身近になるように、私達を取り巻く財政問題を解きほぐして、日常生活や将来のくらしを納得いくものにしようというのが、このゼミのねらい。そんなの関係ないと思えば、そこでおしまい。逆に今までと少しでも違った世間が見えてくるようになれば、これはもう十分に合格です。
参加する皆さんを中心にゼミを進めていきたいと思っています。

【講義計画】
やさしい財政の本をテキストに報告をしてもらいますが、その時々の関係する話題を紹介し、議論しながら、実践的な税金や財政の知識を深めていくことを目指します。必要に応じてビデオなども活用します。

【成績評価の方法】
出席を最重視し、課題レポートや日常の出席態度などによって総合評価します。

【教科書】
最初の時間にゼミ生の意向を聞いて決めます。

【参考文献】
適宜紹介します。

科　目　名			
応用言語学			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	春学期集中	4単位	橋　内　　武

【講義概要・学習目標】
応用言語学は、1940年代後半から50年代前半にかけて言語学の異言語教育への応用として成立したが、現在では学際的言語学として言語学と隣接科学の中間領域に位置づけられている。その他に、言語問題の学という立場や「ことばの職業」研究であるという立場もあり、一筋縄ではいかないのが、応用言語学である。本講では、これら４つの応用言語学についての基本事項を講ずることをもって応用言語学への誘いとする。履修者にことばの多面性に気付いてもらい、将来英語教員・日本語教師・言語聴覚士や通訳などのことばの職業に就くために必要なことばに対する見方を養ってもらうことが、学習目標となる。

【講義計画】
第１回　イントロダクション（授業計画・教科書・評価法等）
第２回　応用言語学とは何か－目的と対象と方法
第３回　言語問題の学ーその１　言語障害
第４回　言語問題の学ーその２　識字
第５回　言語問題の学ーその３　言語の消滅
第６回　言語問題の学ーその４　ことばの乱れ
第７回　言語問題の学ーその５　誤訳
第８回　外国語教育学ーその１　言語教育政策
第９回　外国語教育学ーその２　シラバス・デザイン
第10回　外国語教育学ーその３　外国語教授法（指導法）
第11回　外国語教授法ーその４　教科書と教材開発
第12回　外国語教授法ーその５　学習用辞書の編集と使い方
第13回　外国語教授法ーその６　言語テストと評価
第14回　学際的言語学ーその１　言語学的失語症学
第15回　学際的言語学ーその２　言語心理学ー言語習得論
第16回　学際的言語学ーその３　言語人類学ー言語と文化
第17回　学際的言語学ーその４　社会言語学ー言語変種・変異
第18回　学際的言語学ーその５　言語地理学ー方言地図
第19回　学際的言語学ーその５　法言語学ー言語と法
第20回　学際的言語学ーその６　言語経済学ー言語の市場
第22回　ことばの職業ーその１　英語教員
第23回　ことばの職業ーその２　日本語教師
第24回　ことばの職業ーその３　言語聴覚士
第25回　ことばの職業ーその４　通訳者と翻訳家
第26回　ことばの職業ーその５　もの書き（作家）
第27回　ことばの職業ーその６　噺家（落語家）
第28回　まとめと補遺

【成績評価の方法】
授業への出席と積極的参加：20%
レポート（Ａ４　ワープロ３枚1200字）：20%
期末試験：60%

【教科書】
山内　進編著『言語教育学入門』大修館書店

【参考文献】
大谷泰照、『日本人にとって英語とは何か』、大修館書店、2007.
小池生夫編、『応用言語学事典』、研究社、2003.
白畑知彦ほか著　『英語教育用語辞典』、大修館書店、1999.
ジョンソン・ジョンソン編（岡秀夫監訳）、『外国語教育学大辞典』、大修館書店、1999.
鈴木貞次編、『言語科学の百科事典』、丸善、2006.

科　目　名			
音声学・音韻論			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	秋学期集中	4単位	南　條　健　助

【講義概要・学習目標】
この授業では、標準的なアメリカ英語とイギリス英語の音声を研究し、英語音声学の基本的な理論を学んでもらうと同時に、実際に英語の音声を正しく聞き取り、自分でも正確な発音ができるようになるための実践的な訓練を行なう。
音声学（phonetics）とは、音声を科学的に研究する言語科学（linguistic sciences）の一分野であり、同時に、あらゆる音声を正確に聞き分け、かつ発音し分けることができる、いわば職人芸（art）でもある。また、イギリス学派音声学（British school of phonetics）では、音韻論（phonology）も音声学の一部であると見做される。
この授業では、イギリス学派の伝統である実践音声学（practical phonetics）というやり方によって、標準的なアメリカ英語とイギリス英語の音声を、主として調音（articulation）の面から研究する。実践音声学の手法を用いるためには、まず初めに、たとえ日本人であっても、英米人と区別がつかないくらい、英米人そっくりの発音ができる技能を身につけなければならない。授業では、どうすればそういう発音ができるようになるのかを詳しく解説し、そのための音声学訓練（phonetic training）に多くの時間を割くつもりである。また、そのような訓練と並行して、毎回少しずつ音声の理論と英語の音声事実を勉強してゆくことにしたい。

【講義計画】
第１回　入門編（１）
第２回　入門編（２）
第３回　入門編（３）
第４回　強勢とリズム（１）
第５回　強勢とリズム（２）
第６回　強勢とリズム（３）
第７回　強勢とリズム（４）
第８回　音調（１）
第９回　音調（２）
第10回　音調（３）
第11回　音調（４）
第12回　音のつながりと音変化（１）
第13回　音のつながりと音変化（２）
第14回　音のつながりと音変化（３）
第15回　音のつながりと音変化（４）
第16回　子音（１）
第17回　子音（２）
第18回　子音（３）
第19回　子音（４）
第20回　子音（５）
第21回　母音（１）
第22回　母音（２）
第23回　母音（３）
第24回　母音（４）
第25回　母音（５）
第26回　発展編（１）
第27回　発展編（２）
第28回　発展編（３）

【成績評価の方法】
原則として、定期試験（80%）と提出課題や小テスト（20%）を総合して評価する。定期試験では、欠かさず授業に出席して、きちんとノートを取っていなければ解答できない問題を出題する。また、８回以上欠席した者には、定期試験の成績にかかわらず、単位は与えられない。授業中、私語をする学生には即座に退室してもらい、その日は欠席扱いとする。

【教科書】
開講時までに指定する。
なお、補助教材として、必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献】
授業中に紹介する。

科目名			
海外研修セミナー			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	秋学期集中	4単位	小池　誠

【講義概要・学習目標】

大学内における週１回のゼミ学習と、海外における正味10日間の研修活動を組み合わせたユニークな科目です。１年次の学生が海外での実体験にもとづき、２年次以降の専修において勉強を進めていく上で、動機付けとなるような科目を目指しています。秋学期週１回のゼミでは、訪問先の歴史と文化に関して受講者が自ら調べたことを発表し、受講者の間でディスカッションします。また、訪問先ではグループごとに調査テーマを決めて、参加者が基礎的なフィールドワークに取り組みます。また、訪問先で現地の大学生との交流会を開催します。帰国後、海外フィールドワークの成果をレポートにまとめ、報告会で発表することになります。

今年度は、東南アジアのシンガポールとインドネシアを訪問する予定です。東南アジアの最先端をいく華やかな都市の消費文化と、まだまだ開発が進んでいない農村社会の様子を見学します。２～３月に予定している海外研修の詳細に関しては、７月中にセミナーの説明会を開催し、具体的な旅程と経費などについて話します。

【講義計画】

第１回　セミナーのガイダンス
第２回～第８回　グループに分かれて、シンガポールとインドネシアに関する資料調査とプレゼンテーション
第９回～第12回　グループごとの調査テーマの発表
第13回～第15回　海外研修のオリエンテーション

【成績評価の方法】

単位取得のためには海外研修への参加が義務付けられます。また、出席を重視し、ゼミでの発表とディスカッションへの積極的な参加と、帰国後にまとめる報告書の内容を総合的に評価して成績をつけます。

【参考文献】

授業中に必要に応じて紹介する。

【備考】

＜08Ｌ生＞のみ対象

科目名			
会計学基礎			
クラス	講義区分	単位数	担当者
01	秋学期	2単位	谷　武幸
02	秋学期		谷　武幸
03	秋学期		全（チョン）　在（ジェ）紋（ムン）
04	秋学期		全（チョン）　在（ジェ）紋（ムン）

【講義概要・学習目標】

「会計」(accounting) は「企業の言語」(language of business) と言われる。日本人なら日本語で話をし、アメリカ人なら英語で話をするように、「企業人」(business person) は〈会計〉で話をしているというわけである。英語も知らないで、アメリカ社会で高い報酬は期待できない。同じように、会計を知らずして、経済社会での成功（出世）もおぼつかない。本講義は、企業の言語の基本的な会話法を伝授する。

〈学習目標〉

企業の言語の基本的な会話力を身につけるため、以下を学習目標とする。

（１）資産・負債・資本・利益・資金など、財務諸概念の意味を理解する。
（２）企業から提供される財務情報に込められた、数字の意味を読み取る。
（３）企業により提供される財務情報について、その実践的な利用法を学ぶ。
（４）経営学部専門科目の履修に際し、必須の基礎知識を修得する。

【講義計画】

テキストの目次は次の通り豊富であるが、国内外の経済動向、受講生の関心等を勘案して取捨選択的に講義する。

第１章　会計とは？
第２章　基本的な会計情報とは？
第３章　決算書の情報を分析するには？
第４章　税金はどのように計算するのか？
第５章　コストと会計情報とはどのように結びつくのか？
第６章　経営管理に会計情報をどう役立てるのか？
第７章　財務諸表は本当か？
第８章　決算書の内容や様式はどのように決まるのか？
第９章　会計は職業とどう結びつくのか？

【成績評価の方法】

授業の出席状況、課題（宿題）の達成状況、および筆記試験の総合点で評価する。

【教科書】

小林哲夫・全 在 紋・朴 大 栄（共編著）まなびの入門会計学
中央経済社
【毎時間必携】

【参考文献】

参考資料は適宜配布します。

【備考】

この授業は、正当な理由（電車の延着その他）がない場合、開始10分以降の入室を禁じます。

科　目　名			
会計学原理			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	春学期集中	4単位	中　村　恒　彦

【講義概要・学習目標】

本年度の会計学原理では、会計理論の歴史、会計学の方法論、最新の会計理論、国際会計と幅広い項目について学習します。学習内容が非常に高度であるため、ひとつひとつの理論をゆっくりと学習していく予定にしています。また、財務諸表論や簿記関連科目と重複する部分が多いので、関連科目を履修することをお勧めします。

最後に、この講義を通じて、論理的な考え方がどういうものかについて理解が深まればよいと思います。論理的な考えた方に固執することはいけませんが、自分の視野を広げるためにも論理的な考え方が必要となります。会計学者や会計士や企業の財務担当者が考える論理の世界について体感していただければよいと思います。

【講義計画】

1．会計学のイメージ
2．複式簿記
3．期間計算
4．固定資産会計
5．監査
6．会計学の発展
7．会計学の方法論
8．利益概念
9．貸借対照表
10．損益計算書
11．キャッシュフロー計算書
12．国際会計①
13．国際会計②
14．まとめ

【成績評価の方法】

期末試験（100点）＋出席点・レポートなど（50点予定）

【教科書】

加古宜士+大塚宗春『財務会計の理論と応用』中央経済社
こちらの教科書は、購入する必要はありません。
友岡賛 歴史にふれる会計学 有斐閣アルマ
こちらの教科書は、入手してください。

【参考文献】

中野常男［1992］『会計理論生成史』中央経済社

科　目　名			
介護演習			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
01	春学期	2単位	金　津　春　江

【講義概要・学習目標】

加齢や心身の障害を持ちながら、どのようにすれば今ある能力を最大限に活かした日常生活を送ることを援助できるということを基本に、介護技術について、その原理原則、基本を踏まえた方法を学ぶ。授業は講義及び演習の形態をとし、単元ごとに一定の講義により必要事項の説明及び関連事項の知識的整理をし、技術の基本部分に関する知識の定着をはかる。その上で技術の提供方法等に関するデモンストレーションによって知識の具体化をはかり、演習によって具体的援助方法の習得をはかる。

【講義計画】

1　オリエンテーション
2　コミュニケーション
3　環境作り
4　ベッドメーキング
5　移動と移乗
6　食事介助
7　口腔ケア
8　排泄介助
9　衣服の着脱の介助
10　足浴・手浴
11　緊急時の対応
12　福祉用具の使い方
13　介護過程の展開
14　介護過程の展開
15　まとめ

【成績評価の方法】

授業出席状況、授業への参加度、技術の取得度、レポートなどで総合的に評価します。

【教科書】

指定しません。

担当教員が購入し配布

【参考文献】

適宜授業で紹介します。

科　目　名			
介護演習			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
02	春学期	2単位	金　津　春　江

【講義概要・学習目標】
加齢や心身の障害を持ちながら、どのようにすれば今ある能力を最大限に活かした日常生活を送ることを援助できるということを基本に、介護技術について、その原理原則、基本を踏まえた方法を学ぶ。授業は講義及び演習の形態をとし、単元ごとに一定の講義により必要事項の説明及び関連事項の知識的整理をし、技術の基本部分に関する知識の定着をはかる。その上で技術の提供方法等に関するデモンストレーションによって知識の具体化をはかり、演習によって具体的援助方法の習得をはかる。

【講義計画】
1　オリエンテーション
2　コミュニケーション
3　環境作り
4　ベッドメーキング
5　移動と移乗
6　食事介助
7　口腔ケア
8　排泄介助
9　衣服の着脱の介助
10　足浴・手浴
11　緊急時の対応
12　福祉用具の使い方
13　介護過程の展開
14　介護過程の展開
15　まとめ

【成績評価の方法】
授業出席状況、授業への参加度、技術の取得度、レポートなどで総合的に評価します。

【教科書】
指定しません。

担当教員が購入し配布

【参考文献】
適宜授業で紹介します。

科　目　名			
介護演習			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
03 04	春学期	2単位	川　井　太加子

【講義概要・学習目標】
加齢や心身の障害を持ちながら、どのようにすれば今ある能力を最大限に活かした日常生活を送ることを援助できるということを基本に、介護技術について、その原理原則、基本を踏まえた方法を学ぶ。授業は講義及び演習の形態をとし、単元ごとに一定の講義により必要事項の説明及び関連事項の知識的整理をし、技術の基本部分に関する知識の定着をはかる。その上で技術の提供方法等に関するデモンストレーションによって知識の具体化をはかり、演習によって具体的援助方法の習得をはかる。

【講義計画】
1　オリエンテーション
2　コミュニケーション
3　環境作り
4　ベッドメーキング
5　移動と移乗
6　食事介助
7　口腔ケア
8　排泄介助
9　衣服の着脱の介助
10　足浴・手浴
11　緊急時の対応
12　福祉用具の使い方
13　介護過程の展開
14　介護過程の展開
15　まとめ

【成績評価の方法】
授業出席状況、授業への参加度、技術の取得度、レポートなどで総合的に評価します。

【教科書】
指定しません。

担当教員が購入し配布

【参考文献】
適宜授業で紹介します。

科　目　名			
介護概論			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
01 02	秋学期 秋学期	2単位	金　津　春　江 川　井　太加子

【講義概要・学習目標】
1　介護の役割を理解するとともに、看護・医療との関係について理解する。
2　具体的な介助方法の実際について演習形式で学ぶ。
3　高齢者の身体的および精神的な変化に対する観察能力を身につけ、それらの変化に対処できる能力を養う。

【講義計画】
1　オリエンテーション
2　介護の機能および範囲
3　加齢に伴う心身の変化
4　高齢者体験・車椅子体験などの演習
5　介護専門職と保健・医療専門職との連携
6　介護技法　1）身体の自然な動き
　　2）食事
　　3）排泄
　　4）移動
7　コミュニケーション技法
8　痴呆高齢者の理解と介護
9　ターミナルケア

【成績評価の方法】
出席、レポート、試験で総合的に評価します。

【教科書】
社会福祉士養成講座14介護概論　中央法規

【参考文献】
適宜授業で紹介します。

科　目　名			
外国史			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
01	通期	4単位	山　崎　充　彦

【講義概要・学習目標】
「歴史」とは、実に多様な側面を持つ。政治に焦点を当てれば「政治史」に、経済なら「経済史」、思想の流れを主軸とすれば「思想史」となる。この講義では、「政治史」・「政治思想史」・「社会史」・「文化史」など、特定の領域だけに限定することは出来るだけ避け、政治・経済・社会・文化など様々な観点から歴史を捉え、また、特定の地域・時代に偏ることなく、（日本を含めた）すべての歴史は常に「世界史」の一環であるとの見地から講義する。

【講義計画】
Ⅰ　歴史学とは（総論）
第１回　歴史研究の持つ問題性
第２回　西欧中心史観の問題性と、その克服
第３回　歴史をどう「解釈」するか。
第４回　歴史学における「政治的なるもの」と、その問題点

Ⅱ　世界の歴史（各論）
第５回　ヘレニズムとヘブライズム
第６回　ローマ帝国と成立と興亡、その世界史的影響
第７回　キリスト教の成立とその世界史的意義
第８回　中国の「歴史観」－「二十四史」とは？
第９回　東アジア世界の成立と展開①（漢王朝の隆盛）
第10回　東アジア世界の成立と展開②
　　（隋・唐・宋王朝の特質）
第11回　イスラーム世界の成立（預言者ムハンマド）
第12回　ビザンツ帝国とその文化の世界史的意義
第13回　中世ヨーロッパ世界の成立と展開
　　（フランク王国など）
第14回　中世ヨーロッパ国家の特質
　　（キリスト教会と国家との関係）
第15回　東西文明の交流
　　（ルネサンスへのイスラーム文明の影響）
第16回　絶対主義国家の成立と展開（T. ホッブズの国家観）
第17回　ヨーロッパにおける市民革命とその理論
　　（J. ロックの国家観）
第18回　モンゴル帝国（元王朝）の成立と衰亡
第19回　明・清帝国の展開（中国文明の興隆）
第20回　イスラーム世界の発展
　　（オスマン帝国、サファビー朝、ムガル帝国）
第21回　近代主権国家の成立とその特質
　　（ウェストファリア体制など）
第22回　19世紀ヨーロッパの隆盛
　　（なぜ、ヨーロッパ国家が優勢に立ったのか）
第23回　ヨーロッパの世界進出
　　（アジアの植民地化、アヘン戦争）
第24回　ロシア帝国の内情と文化
第25回　第１次世界大戦とロシア革命
第26回　戦間期の世界（ヴァイマル共和国、世界恐慌、
　　ファッシズムの抬頭）
第27回　第２次世界大戦
第28回　冷戦とアジア諸国の独立
第29回　現代の諸問題
第30回　まとめ

このシラバスは、講義の一つの目安であり絶対的なものではない。受講生の関心など諸事情によって、部分的に変更するなど、柔軟に対応する予定である。

【成績評価の方法】
例年、受講生が多数にのぼるので、「定期試験のみ」で評価する。

【教科書】
特定のテキストは使用しない。

【参考文献】
適宜指示するが「古典的名著」として以下などを挙げておく。

・内藤湖南、『支那史学史』、ちくま書房
・宮崎市定、『中国史』、岩波書店
・ブルクハルト、『イタリア・ルネサンスの文化』、中央公論新社
・マイネッケ、『ドイツの悲劇』、中央公論新社
・井筒俊彦、『イスラーム文化・その根柢にあるもの』、『ロシア的人間』、中央公論新社

科目名			
外国史			
クラス	講義区分	単位数	担当者
02	秋学期集中	4単位	梅田 百合香

か行

【講義概要・学習目標】
本講義では、西洋史の基本的な流れと諸概念をおさえ、歴史のなかで形成されてきた世界の各地域の政治・経済・社会・文化の特徴を現代における諸問題との関連のなかで考察し、現代世界が抱える課題を世界史的に理解する。中・高等学校で世界史を教えることを念頭におきつつ、西洋史の基礎的知識を身につけ、世界の動きを歴史的に分析する視野を養うことをねらいとする。
なお、毎回講義のテーマに関る歴史関連の映像資料を視聴し、歴史上の人物や事件について理解を深める。

【講義計画】
第１回　講義ガイダンス
第２回　ローマ共和政および帝国
第３回　キリスト教の成立と展開
第４回　ビザンツ・スラブ世界
第５回　西欧封建社会
第６回　百年戦争
第７回　宗教改革
第８回　近世国家の成立
第９回　三十年戦争とウェストファリア体制
第10回　ピューリタン革命
第11回　名誉革命
第12回　アメリカ独立革命
第13回　フランス革命
第14回　ナポレオン帝国
第15回　ウィーン体制
第16回　イタリア、ドイツの国家統一と南北アメリカ
第17回　帝国主義と大衆社会
第18回　第一次世界大戦
第19回　ヴェルサイユ体制
第20回　第二次世界大戦
第21回　ナチスドイツ
第22回　日本の占領と講和
第23回　東西分裂と冷戦
第24回　脱植民地化と戦後体制の安定
第25回　アジアの独立革命とアメリカ
第26回　サッチャリズムとレーガノミクス
第27回　冷戦の終結とヨーロッパ統合
第28回　アメリカのヘゲモニー
第29回　期末試験

【成績評価の方法】
成績評価基準は期末試験を70%、平常点を30%とする。毎回講義の最後に感想文の提出を求め、平常点として加点するとともに、学期末に論述形式の試験を行い、総合して成績を評価する。

【教科書】
特定の教科書は使用せず、毎回プリントを配布する。

【参考文献】
講義中に適宜紹介する。

科　目　名			
外国書講読			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
11	通期	4単位	石　黒　亜　維

【講義概要・学習目標】

「東アジア共同体」構想が具体的に議論されつつある今日、その中でも日本と中国の関係は特に重要とされており、2007年以降、日中関係は徐々に改善の兆しを見せている。その一方で日中間には、歴史認識、経済権益などをめぐってさまざまな問題も存在している。このような状況を中国のマスメディアはどのようにとらえているのであろうか。本講義では、中国で発行されている新聞・雑誌等の記事から、特に日中関係に関する記事を中心に取り上げ講読し、中国に対する理解を深めるとともに、日中間の相互認識の特徴をとらえることを目標とする。

【講義計画】

中国国内で発行されている新聞、雑誌の記事を中心に輪読する。

【成績評価の方法】

筆記試験によるが、授業中の小レポート、出席状況も考慮する。

【教科書】

オリジナル教材として随時配布する。

【参考文献】

必要に応じて指示する。

科　目　名			
外国書講読			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
12	通期	4単位	田　村　　剛

【講義概要・学習目標】

近年、様々な地域づくり活動が展開されているが、その一つにエコミュージアムを通じた取り組みがある。

エコミュージアムは、地域全体（自然、農地、生活の場、歴史・文化遺産など）を一つの「博物館」と見なして、地域の活性化を図っていこうとする概念であり、最近注目されている。

本外国書講読では、国内外の事例を通じて、エコミュージアムの概念やその取組内容について吟味していく。またテキストの輪読を行うことにより、英語の読解力を高めることも目標とする。

【講義計画】

テキストの順序に従い、１授業あたり２～３ページ程度を数人で分担し、順番に翻訳を行ってもらい、その都度解説を加える形で進める。なお、発表者がわからなかった箇所については、他の人に答えてもらう場合があるので、参加者は予習が必要となる。

【成績評価の方法】

出席状況、翻訳の出来具合、発言などを考慮して総合的に評価する。

【教科書】

プリントを配布する

科　目　名			
外国書講読			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
41	通期	4単位	隅　田　　孝

【講義概要・学習目標】

マーケティングをいかに効率よく戦略的に計画・実践するかということは、事業分野を問わずほとんど全ての企業にとって非常に重要な課題である。また、企業はマーケティングを計画・実践するには生産、製品、販売、顧客、市場などさまざまな環境と密接に関係をもっていることを認識していなければならない。

本講義では、英語文献を通して、上述したマーケティングの核となる概念をしっかりと理解していく。また、マーケティングへの理解はもとより、平行して英語への理解についてもしっかりと学んでいく。特に、英文講読に必要な文法力の鍛錬に多くの比重を置く。TOEFLサンプルを使用し文法解説を行う。よって、受講生の理解度を測りながらマーケティングの理解、英語文献読解力、TOEFL・TOEIC対策などさまざまな目的に対応した講義を行っていく。

【講義計画】

毎講義において、前半は文法解説・後半は配布プリントの英文精読を行う予定である。受講生の理解度を考慮して、英文精読は時間をかけてゆっくりと進めていく。

1．グローバル化する経済
2．格差の拡大
3．環境の変化
4．企業の新しい視点
5．マーケティング・コンセプト
6．ニーズ、ウォンツ、ディマンズ
7．製品コンセプト
8．価値、費用、満足
9．交換、取引、関係性

以上が概ねの予定であるが、これら以外にも必要に応じて指示をする。

【成績評価の方法】

出席状況、授業態度、期末試験により総合的に評価する。

【教科書】

Kotler, Philip Marketing Management, 8 th. ed. Prentice Hall
Kotler, Philip (1994) , Marketing Management, 8 th. ed., Prentice Hall. より抜粋しプリントを配布する。

【参考文献】

必要に応じて参考文献を指示する。

科　目　名			
外国書講読			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
42	通期	4単位	隅　田　　孝

【講義概要・学習目標】

マーケティングをいかに効率よく戦略的に計画・実践するかということは、事業分野を問わずほとんど全ての企業にとって非常に重要な課題である。また、企業はマーケティングを計画・実践するには生産、製品、販売、顧客、市場などさまざまな環境と密接に関係をもっていることを認識していなければならない。

本講義では、英語文献を通して、上述したマーケティングの核となる概念をしっかりと理解していく。また、マーケティングへの理解はもとより、平行して英語への理解についてもしっかりと学んでいく。特に、英文講読に必要な文法力の鍛錬に多くの比重を置く。TOEFLサンプルを使用し文法解説を行う。よって、受講生の理解度を測りながらマーケティングの理解、英語文献読解力、TOEFL・TOEIC対策などさまざまな目的に対応した講義を行っていく。

【講義計画】

毎講義において、前半は文法解説・後半は配布プリントの英文精読を行う予定である。受講生の理解度を考慮して、英文精読は時間をかけてゆっくりと進めていく。

1．グローバル化する経済
2．格差の拡大
3．環境の変化
4．企業の新しい視点
5．マーケティング・コンセプト
6．ニーズ、ウォンツ、ディマンズ
7．製品コンセプト
8．価値、費用、満足
9．交換、取引、関係性

以上が概ねの予定であるが、これら以外にも必要に応じて指示をする。

【成績評価の方法】

出席状況、授業態度、期末試験により総合的に評価する。

【教科書】

Kotler, Philip Marketing Management, 8 th. ed. Prentice Hall
Kotler, Philip (1994) , Marketing Management, 8 th. ed., Prentice Hall. より抜粋しプリントを配布する。

【参考文献】

必要に応じて参考文献を指示する。

科　目　名			
外国書講読			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
51	通期	4単位	的　場　かおり

【講義概要・学習目標】
講義の目的は、ヴィトンの誕生秘話やコスプレ・ファッション、恋愛がうまくいく身長差などといったポップな話題から、９・11テロ後のアメリカ社会の変容や人種・宗教問題にいたるまで、現代社会をさまざまな角度から読み解くことである。
講義では、単に英文を解読する英語力を向上させるだけではなく、これらの身近なテーマを入り口に、それぞれの背景にある問題や課題について考察・分析する力を養うことを目指す。

【講義計画】
①毎回１テーマを講読し、そのテーマについて話し合う
②英単語の小テストを実施する
③関連するその他の書籍やDVDなどを参照する

【成績評価の方法】
①出席状況
②講義への参加態度
③小テストの成績
④前期・後期末のレポート（もしくはテスト）の成績
以上の４つを総合的に評価する。

【教科書】
Hiroaki Natsume, Shinya Kawahara World Outlook Asahi Press

【参考文献】
講義のなかで適宜指示する。

科　目　名			
外国法－英米法の歴史と現在			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	通期	4単位	沼　口　智　則

【講義概要・学習目標】
外国法の中で英米法を講義する。英米法は、イギリス法とアメリカ法に分かれる。《春学期》は、総論として英米法の歴史を概観しながら、コモン・ロー（Common Law）のシステムについて説明していく。次にイギリス法を中心に、コモン・ローとは何か、その特質とは何かということについて、人権の成立とその発展の歴史的背景を踏まえて講義を進めていきたい。《秋学期》は、アメリカ法を中心に司法審判制のしくみ・アメリカ連邦制の特徴・判例法原則などを具体的判例の紹介・分析を通じて明らかにしていく。同時にアメリカ法文化の特徴を日本の法文化との比較の中から考察し、日本の「法化社会」（＝「訴訟型契約社会」）のいくえも展望していきたい。

【講義計画】
１．英米法総論
・英米法の歴史と特徴
・コモン・ロー（判例法）原理
２．イギリス法
・人権の成立とその発展
・コモン・ロー（判例法）原理
３．アメリカ法
・司法審査制
・アメリカ連邦制
・コモン・ロー（判例法）原理
４．英米法と日本
・日本の「法化社会」＝「訴訟型契約社会」のいくえ

【成績評価の方法】
夏休みに簡単なレポート（指示する課題図書の中から選択）を書いてもらうとともに、学年末試験で総合評価する。春・秋学期中に授業中に書ける程度の小レポートを要求する場合もある。

【教科書】
特に指定しない。

【参考文献】
開講時に基本文献リストを配布するとともに、講義でその都度指示する。

科　目　名			
カウンセリング［2］			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	春学期	2単位	岡　井　哲　明

【講義概要・学習目標】

悩み深き時代である。虐待やいじめ、自殺の話題が新聞を賑わす日は多い。心の問題に深く関係していると思われることは多く、カウンセリング等心理治療に対する期待は大きい。

カウンセリングは、元々アメリカで教育相談として発展してきた対人援助技法であるが、日本に導入されて以来、国内で相当に広がり実践されている。今やカウンセリングという言葉を知らない人は少ない。

本講義では、カウンセリングについて、その具体的な心理的援助が実際に、どのような理論に基づいて展開されているのかについて、構造的な約束事などルールの必要性を含めて、分かりやすく講義する。

また、必要に応じて、講義だけにとどまらず、ロールプレイなどの模擬体験学習を組み入れ、実践学としてのカウンセリングへの理解を深め、今後、対人援助に向かうであろう受講者に役立つ機会となればと考えている。

【講義計画】

1．「こころ」とは
2．カウンセリングとは
3．カウンセリングの歴史
4．カウンセリングの理論
5．カウンセリングの技法
6．カウンセリングにおける構造化
7．カウンセリング過程
8．カウンセリングの効用と限界
9．カウンセラーの養成
10．カウンセリングとソーシャルワーク
※　適宜の模擬体験学習

【成績評価の方法】

出席及びレポートの成績を最終的な評価とする。

【教科書】

特に指定はしない。

【参考文献】

随時、講義の中で紹介する。

科　目　名			
科学技術史			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	秋学期集中	4単位	松　永　俊　男

【講義概要・学習目標】

西洋科学の流れを概観し、日本における西洋科学の受容について述べる。

西洋科学の源流は古代ギリシアにある。講義ではまず、ギリシアで科学が生まれた経過を探求し、ギリシア科学がイスラム文化圏で受け継がれ、発展した経過を追う。ついで、イスラム文化の導入により、ヨーロッパで科学革命が起こり、近代科学が発展していった経過を述べる。

講義の後半では、江戸時代に主としてオランダ語を介して西洋の科学が日本に導入された経過を追い、明治以降の西洋科学の導入について考察する。

【講義計画】

1．はじめに
2．西洋科学の思想的背景
3．アリストテレス
4．アルキメデス
5．キリスト教とはなにか
6．ギリシア思想とキリスト教
7．序章のまとめ：古代・中世の科学とキリスト教
8．コペルニクスの生涯と業績
9．コペルニクスの太陽中心説
10．ガリレオの生涯と業績
11．ガリレオと宗教
12．ガリレオ裁判の謎
13．ニュートンの生涯と業績
14．ニュートンと宗教
15．ニュートン力学の発展と世俗化
16．前半のまとめ：近代科学の成立とキリスト教
17．イギリスの自然神学
18．リンネの分類学とキリスト教
19．ビクトリア朝の科学と宗教
20．ダーウィンの生涯と業績
21．ダーウィン進化論の誕生
22．『種の起源』と自然神学
23．ダーウィン進化論の反響
24．アメリカのファンダメンタリズム
25．ローマ教会と科学
26．イエズス会宣教師の科学普及活動
27．科学と宗教の闘争史観の成立
28．科学と宗教の闘争史観の否定
29．まとめ
30．試験

【成績評価の方法】

主として、期末試験によって評価する予定。ただし、通常授業中に、理解度確認のテストを実施することもある。

科　目　名			
科学思想史			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	春学期集中	4単位	松　永　俊　男

【講義概要・学習目標】

近代科学は17世紀に成立するが、その思想的背景には、古代ギリシアの合理主義、魔術思想、キリスト教信仰などがあった。この授業では、その中でも科学とキリスト教との関係に焦点を絞って講義する。

一般に、科学と宗教は対立すると思われているが、それは間違いである。西洋近代科学は、神に由来する自然の秩序を見いだすことを目的にしていた。科学研究はキリスト教に奉仕するものだった。ようやく19世紀になって、科学は宗教から分離、独立していった。

講義ではガリレオ、ニュートン、あるいはダーウィンらの科学がキリスト教信仰と結びついていたことを明らかにし、それにもかかわらず、なぜ、科学と宗教が対立すると思われているのかについて考察する。

【講義計画】

1．はじめに
2．西洋科学の思想的背景
3．アリストテレス
4．アルキメデス
5．キリスト教とはなにか
6．ギリシア思想とキリスト教
7．序章のまとめ：古代・中世の科学とキリスト教
8．コペルニクスの生涯と業績
9．コペルニクスの太陽中心説
10．ガリレオの生涯と業績
11．ガリレオと宗教
12．ガリレオ裁判の謎
13．ニュートンの生涯と業績
14．ニュートンと宗教
15．ニュートン力学の発展と世俗化
16．前半のまとめ：近代科学の成立とキリスト教
17．イギリスの自然神学
18．リンネの分類学とキリスト教
19．ビクトリア朝の科学と宗教
20．ダーウィンの生涯と業績
21．ダーウィン進化論の誕生
22．『種の起源』と自然神学
23．ダーウィン進化論の反響
24．アメリカのファンダメンタリズム
25．ローマ教会と科学
26．イエズス会宣教師の科学普及活動
27．科学と宗教の闘争史観の成立
28．科学と宗教の闘争史観の否定
29．まとめ
30．試験

【成績評価の方法】

主として、期末試験によって評価する予定。ただし、通常授業中に、理解度確認のテストを実施することもある。

【参考文献】

松永俊男『ダーウィンの時代－科学と宗教』名古屋大学出版会

科　目　名			
学外研修－インターンシップ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
01 02	秋学期	2単位	吉　田　恵　子 寺　田　友　子

【講義概要・学習目標】

学生が夏休みなどを利用し、企業や官公庁、非営利団体等のさまざまな職場で一定期間就業体験を行う制度です。
この就業体験を通して、大学における学びの意義を認識し、学生の自立とキャリア形成を支援する教育プログラムです。

また自分の進路についての問題意識や目的意識を持つことで、就職活動を有意義に進めることができ、就職後のミスマッチを防ぐことになります。

本学のインターンシップは会社選択のために行うものではありませんので、必ずしも希望する業界・企業に派遣されるわけではありません。

【講義計画】

（1）事前研修
　A　オリエンテーション（概要、心構えについて）
　B　業界研究
　C　職種研究
　D　スキルアップ（パワーポイント等）、プレゼンテーション
　E　スキルアップ（コミュニケーション等）、マナー
　F　事前訪問について
（2）研修期間
　夏期休暇中（5日間）
（3）事後研修
　研修結果の報告

【成績評価の方法】

事前研修、事後研修、研修先からの評価、研修報告書などを含めて総合的に評価する。

【備考】

受講対象者は3回生で、学科選択科目に位置する。

科　目　名			
学際科目－日本の仏教			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	秋学期集中	4単位	梅　山　秀　幸

【講義概要・学習目標】
インド生まれの仏教は日本に渡って来て、変容を遂げた。その変容の過程を聖徳太子や、空海、最澄、源信、法然、親鸞、あるいは蓮如などといった祖師たちの著作をたどり、さらには『源氏物語』や『平家物語』などの古典文学作品や絵巻物、仏画、仏像を鑑賞することによって明らかにしていきたい。さらには、現在の日本人の心にも影を落としている仏教のありようを近代の文学者の作品の中にも見て行きたい。現在、梅山はフランスのコレージュ・ド・フランスにおいて研修中で、フランス人で日本の民衆仏教の研究者であった故ベルナール・フランク氏の研究室をそのまま使わせてもらっている。彼の残した寺社のお札や日本各地の名所のパンフレットの中で毎日を過ごしていることになる。中庭をはさんでレヴィ＝ストロース氏の研究室の窓も見える。フランク氏の目を通しての日本仏教にも触れてみたいし、レヴィ＝ストロースの見た日本文化についても触れてみたい。

【講義計画】
1、六道絵について
2、極楽浄土について
3、当麻曼荼羅について
4、聖徳太子と法隆寺
5、奈良の仏像について
6、釈迦の仏教
7、最澄と空海
9、源信、そして紫式部
10、法然
11、親鸞
12、蓮如
13、柳田国男の『毛坊主考』
14、高麗・朝鮮の仏教
15、夏目漱石の『こころ』を読む。
16、谷崎純一郎を読む。
17、宮沢賢治を読む。
18、太宰治を読む。
19、ベルナール・フランクの見た日本の仏教
20、レヴィ＝ストロースの見た日本文化。

【成績評価の方法】
学期末に試験を実施する。

【教科書】
梅原猛「地獄の思想」中公新書（中央公論社）

科　目　名			
学部入門講義			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
01	春学期	2単位	Philip.（フィリップ） Billingsley（ビリングズリー）

【講義概要・学習目標】
入学した時点で直面する悩みの一つ：「時間割を作らないといけないけど、どのコースを取ればいいのか？」。いや、その前に迷うことがあるはず：「そもそもこの学部にはどんなコースがあるのだろうか？」、「どんな先生がいるのだろうか？」。通常は「先輩」に聞けば参考になるが、2008年度から発足したばかりの国際教養学部ではそういうわけにはいかない。

そこでこの学部入門講義がお助けマンを演じる。この授業は「インテグレーション」という形をとる。どういうことかまず説明する。国際教養学部は５つの専修（ヨーロッパ・アメリカ文化専修、英語コミュニケーション専修、アジア文化専修、Japanese Studies専修、メディア文化専修）に分かれていて、専任教員はみんないずれかの専修に所属している。この授業では、同じ先生（例えば担当者のBillingsley）が期間を通じて毎回話する従来のパターンではなく、それぞれの専修を代表する複数の教員が自分自身の担当分野に基づいて一回ずつ講義をすることになる。したがって、コースが終了した時点ではこの学部がどんな学部なのか、どんな先生がいるのかなど一通りわかるはずだ。学生諸君は２回生の時から進みたい方向によっていずれかの専修の科目を主に選ぶことになるが、そのときにこの学部入門講義で聴いた様々な話を役に立ててください。

国際教養学部はある特定の教育理念で設置されている。それは、「世界の市民を養成する」という理念。「世界の市民」とは、グローバル化が進む21世紀の世界において、幅広い教養を持ち、氾濫する情報に流されることなく主体性を持って行動する人間、世界に大きく羽ばたき活躍できる能力を持つと同時に地域にも貢献できる人間のことである。講義する教員一人ひとりはそのようなビジョンに踏まえて話を進める。

【講義計画】
第１回：担当者Billingsleyによる学部入門講義の教育理念や学部を構成する５専修についての話。専修おのおのの設置趣旨、教授する内容や目標を紹介し、それぞれの専修において何を学ぶことができるか、あるいは学ばなければならないかを具体的にわかりやすく説明する。

第２回～第13回：５専修を代表する計12名の教員による講義。
アジア文化専修を代表する教員３名（第３回、第７回、第11回）、
メディア文化専修を代表する教員１名（第４回）、
英語コミュニケーション専修を代表する教員３名（第５回、第８回、第12回）、
ヨーロッパ・アメリカ文化専修を代表する教員３名（第２回、第９回、第13回）、
Japanese Studies専修を代表する教員２名（第６回、第10回）（担当する教員の都合により順序を変更する可能性大いにあり、そのつどアナウンスする。）

第14回：総括＋ディスカッション（Billingsley担当）。グループに分かれて意見交換を行う。

【成績評価の方法】
1．２回生以降の進路を決めるのに重要な科目なので出席を重視する。毎回の講義に対する感想、意見、疑問などを書いて提出する義務がある。（そのときの担当者に添削されて後に返ってくる。）
2．期末テストを行う。テストでは最も興味を感じた講義を二つ選んでそれぞれの講義の要点並びに自分の意見を述べる。（資料の持ち込み禁止。）

【参考文献】
特になし。それぞれの担当者によって随時資料が配られる。

【備考】
インテグレーション科目
一部の講義のみ英語で行う
＜08Ｌ生＞のみ対象

科　目　名			
学部入門講義			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
02	秋学期	2単位	Philip.（フィリップ） Billingsley（ビリングズリー）

【講義概要・学習目標】

入学した時点で直面する悩みの一つ：「時間割を作らないといけないけど、どのコースを取ればいいのか？」。いや、その前に迷うことがあるはず：「そもそもこの学部にはどんなコースがあるのだろうか？」、「どんな先生がいるのだろうか？」。通常は「先輩」に聞けば参考になるが、2008年度から発足したばかりの国際教養学部ではそういうわけにはいかない。

そこでこの学部入門講義がお助けマンを演じる。この授業は「インテグレーション」という形をとる。どういうことかまず説明する。国際教養学部は５つの専修（ヨーロッパ・アメリカ文化専修、英語コミュニケーション専修、アジア文化専修、Japanese Studies専修、メディア文化専修）に分かれていて、専任教員はみんないずれかの専修に所属している。この授業では、同じ先生（例えば担当者のBillingsley）が期間を通じて毎回話する従来のパターンではなく、それぞれの専修を代表する複数の教員が自分自身の担当分野に基づいて一回ずつ講義することになる。したがって、コースが終了した時点ではこの学部がどんな学部なのか、どんな先生がいるのかなど一通りわかるはずだ。学生諸君は２回生の時から進みたい方向によっていずれかの専修の科目を主に選ぶことになるが、そのときにこの学部入門講義で聴いた様々な話を役に立ててください。

国際教養学部はある特定の教育理念で設置されている。それは、「世界の市民を養成する」という理念。「世界の市民」とは、グローバル化が進む21世紀の世界において、幅広い教養を持ち、氾濫する情報に流されることなく主体性を持って行動する人間、世界に大きく羽ばたき活躍できる能力を持つと同時に地域にも貢献できる人間のことである。講義する教員一人ひとりはそのようなビジョンに踏まえて話を進める。

【講義計画】

第１回：担当者Billingsleyによる学部入門講義の教育理念や学部を構成する５専修についての話。専修おのおのの設置趣旨、教授する内容や目標を紹介し、それぞれの専修において何を学ぶことができるか、あるいは学ばなければならないかを具体的にわかりやすく説明する。

第２回～第13回：５専修を代表する計12名の教員による講義。
アジア文化専修を代表する教員３名（第３回、第７回、第11回）、
メディア文化専修を代表する教員１名（第４回）、
英語コミュニケーション専修を代表する教員３名（第５回、第８回、第12回）、
ヨーロッパ・アメリカ文化専修を代表する教員３名（第２回、第９回、第13回）、
Japanese Studies専修を代表する教員２名（第６回、第10回）（担当する教員の都合により順序を変更する可能性大いにあり、そのつどアナウンスする。）

第14回：総括＋ディスカッション（Billingsley担当）。グループに分かれて意見交換を行う。

【成績評価の方法】

１．２回生以降の進路を決めるのに重要な科目なので出席を重視する。毎回の講義に対する感想、意見、疑問などを書いて提出する義務がある。（そのときの担当者に添削されて後に返ってくる。）
２．期末テストを行う。テストでは最も興味を感じた講義を二つ選んでそれぞれの講義の要点並びに自分の意見を述べる。（資料の持ち込み禁止。）

【参考文献】

特になし。それぞれの担当者によって随時資料が配られる。

【備考】

インテグレーション科目
一部の講義のみ英語で行う
＜08Ｌ生＞のみ対象

科　目　名			
家族社会学			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	通期	4単位	畠　中　宗　一

【講義概要・学習目標】

家族システムに関する学際的な知識を動員して、理念型としてのhealthy familyを実現していくための基礎的条件を考察する。

近代家族は、個人化原理、愛情原理、平等原理によって特徴づけられる。私事化の肥大化と規範意識の希薄化という社会状況が進行するなかで、それぞれの原理間の矛盾が増幅されてきている。また社会システムに内在する規範への過剰な同調行動によって、家族成員は、それぞれの自己実現を阻止される。このような認識のもとに、家族変動および家族臨床の視点から現代家族の諸相を浮き彫りにする。

【講義計画】

１．家族とは何か：山根家族論のキーワード
２．富裕化社会の家族問題
３．子どものウェルビーイングを実現する家族の要因（１）：母親の就労が子どものウェルビーイングに及ぼす影響
４．子どものウェルビーイングを実現する家族の要因（２）：家族関係が子どものウェルビーイングに及ぼす影響
５．子どものウェルビーイングを実現する家族の要因（３）：入所年齢が子どものウェルビーイングおよび情緒的自立に及ぼす影響
６．情緒的自立（１）：情緒関係が織り成す多様なメッセージ
７．情緒的自立（２）：情緒は関係性のなかで育まれる
８．情緒的自立（３）：情緒を育てることの意味
９．情緒的自立（４）：癒しのメカニズム
10．情緒的自立（５）：手間隙をかけることの意味
11．情緒的自立（６）：甘えは情緒的自立を促す
12．情緒的自立（７）：甘えはエネルギーの充電
13．情緒的自立（８）：情緒を育てるための環境
14．情緒的自立（９）：情緒的自立はどのように育つのか
15．情緒的自立（10）：対人関係と情緒的自立
16．家族形成の諸段階１：青年期の異性交際
17．家族形成の諸段階２：パートナーの選択
18．家族形成の諸段階３：結婚と同棲
19．家族形成の諸段階４：子どもの養育と社会化
20．家族形成の諸段階５：中・高年期の危機と役割の再編
21．家族の危機
22．家族の情緒構造
23．家族機能の変化
24．家族の未来

【成績評価の方法】

試験

【教科書】

畠中宗一　情緒的自立の社会学　世界思想社
前期
畠中宗一　家族支援論：なぜ家族は支援を必要とするのか　世界思想社
後期

【参考文献】

森岡清美・望月嵩『新しい家族社会学』培風館
畠中宗一・木村直子『子どものウェルビーイングと家族』世界思想社

【備考】

前期・後期のテキスト終了後は、家族社会学の基本的なテーマをアトランダムに取り上げる。

科　目　名			
家族福祉論			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	通期	4単位	梓　川　　一

【講義概要・学習目標】
1．社会福祉の原点をおさえ、人間や社会の理解を深める。
2．家族の意味、家族の幸せ、家族の価値に焦点をあて、家族の理解を深める。
3．子ども家庭福祉の分野を中心にして講義を進める。主に「親と子ども」から家族を現実的にとらえていく。
4．具体的な事例を挙げながら、家族に対する援助方法を講義する。
5．客観的な内容（制度や理論）だけでなく、主観的な内容（心理、生活史、感情など）や関連諸科学の内容にも言及した講義を目指す。
6．最近、家庭内で複雑かつ重大な問題が多発し、ますます「家族」が注目されている。大学生は講義を通して、専門的･客観的な知識を頭に詰め込む（＝受験対策など）のではなく、あらためて「家族とは何か」を心でも感じて学ぶことを期待する。「生活や人生について考え、視野を広げ、心豊かに自らの家族をふり返り、そして自らの家族観をもてること」を講義の本質的な目標としたい。

【講義計画】
1．家族福祉論の導入（家族福祉論の必要性、家族内の関係性）
2．現代家族の特質（富裕と貧困、格差社会）
3．家族福祉の定義
4．家族福祉の対象（子どもと親、虐待、依存症、障害者、高齢者など）
5．日本の家族事情、家族の歴史（家事、育児、介護、教育など）

6．環境と人間と家族（日本経済、職場、学校、地域）
7．家族のニーズと生活課題
8．福祉制度サービスと家族（公的なサービスなど）
9．家族福祉の援助方法
10. 家族福祉と社会資源
11. 家族福祉論の理論とアプローチ（社会福祉学の理論など）
12. ナラティブと社会福祉
13. 家族の思い出（家族の物語、幸せな家族）
14. 家族の看取り（家族と死）

【成績評価の方法】
前期と後期、２回の定期試験に基づいて評価する。

【教科書】
畠中宗一他『よくわかる家族福祉』ミネルヴァ書房
畠中宗一編著『よくわかる家族福祉』ミネルヴァ書房、2002年。

科　目　名			
学科特殊講義―英語から日本語をみる			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	秋学期集中	4単位	有　川　康　二

【講義概要・学習目標】
This class is taught in English, but don't worry, the textbook is written in Japanese.　この授業は英語で行います。でも、心配しないでください。教科書は日本語です。We look at Japanese from the point of view of English.

【講義計画】
English is an SVO language, and Japanese is SOV.　But how do you know?　How do you know that the example in (a) is more basic than (b) ?
(a) Hanako-ga Taro-o home-ta.
(b) Taro-o Hanako-ga home-ta.
What is the difference between (a) and (c) ?
(c) Taro-ga Hanako-ni home-rare-ta.
Why is it that (d) is good, but (e) is bad?
(d) Hanako-ga Taro-ni nak-are-ta.
(e) Mary was cried by John.
Why is it that (f) is good, but (g) is bad?
(f) Ziro-wa dare-o home-ta hito-o hihan-si-ta-no?
(g) Who did Bill criticize the person that praised?

Plan
（1）Brain and language（脳と言語）
（2）Word order（語順）
（3）Structure in language（言語の構造）
（4）Scrambling（かきまぜ：語順の置換）
（5）Passive（受け身）
（6）Wh-movement（疑問詞移動），etc.

【成績評価の方法】
出席、試験（教科書・ノート持ち込み可）

【教科書】
西垣内泰介・石居康男 英語から日本語を見る 研究社
教科書対応のプリント（英語）を授業で配布します。

【参考文献】
福井直樹（2001）『自然科学としての言語学-生成文法とは何か』大修館書店
酒井邦嘉（2002）『言語の脳科学-脳はどのようにことばを生みだすか』中公新書

【備考】
教科書対応のプリント（英語）を授業で配布します。
英語による授業です。

科　目　名			
学科特殊講義―回路のデザイン			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	春学期集中	4単位	境　　真理子

【講義概要・学習目標】

「回路のデザイン」は、専門家と市民のあいだに溝がある分野をつなぐため、どのような橋を架けることができるかを考える授業です。放送や科学技術、また、法律や医療などの分野は、専門化・細分化して実体がわかりにくいものとなり、専門家と市民の間に溝が広がっています。このため、専門と非専門のあいだに双方が理解しあえるような「回路」をつくるための“横断知”が求められています。例えば、私たちは毎日のようにテレビから情報を得ています。あるいは、生殖医療など科学が急速に進展する社会と向き合って生きています。いわば小さな個人が、巨大で複雑な専門領域と対峙しているのです。このような状況にもかかわらず、互いに行き来して、対話したり、理解しあったりすることはほとんどありません。そこでコミュニケーションの回路をデザインするという視点から、双方が出会い、理解しあえるためのしくみや架橋の方法を考えます。
利害や立場の異なる当事者、また専門家と市民をつなぐために、どのような回路のデザインが可能なのか、授業ではメディアや科学技術をめぐるいくつかの取り組みを紹介しながら、回路づくりについて、その可能性や課題を論じるだけでなく、実践的に組み替えていく試みも射程にします。
回路のデザインとは、単に情報を市民社会に届ける手法のことではなく、対話に基づいた公正で人間的な調和社会をどう築くかという理念を考えることです。

【講義計画】

１、オリエンテーション：到達目標の設定
２、情報リテラシー：情報の影響力と責任
３、映像論１：映像メディアの歴史
４、映像論２：レトリックとメタファー
５、メディア表現１：映像テキストの分析
６、メディア表現２：物語の創造
７、ミュージアムのデザイン１：展示メディアとは
８、ミュージアムのデザイン２：社会心理と展示
７、回路のデザイン１：専門家と市民を結ぶ
８、回路のデザイン２：放送の送り手と受け手
９、回路のデザイン３： 科学技術と市民
10、回路のデザイン４：サイエンスカフェ
11、回路のデザイン５：医療や法と社会
12、回路のデザイン６：インターフェイスの企画
13、フィールドワーク１：専門家の現場
14、フィールドワーク２：専門家との対話
15、プリゼンテーション：中間発表
16、プリゼンテーション２：中間発表
17、情報デザイン１：基礎論
18、情報デザイン２：表現論
19、インタビュー研究１：話を聞く技術
20、インタビュー実践１：構成と表現
21、ネットワークの利用１：企画取材
22、ネットワークの利用２：発信
23、コンテンツの企画１：映像
24、コンテンツの企画２：出版物
25、コンテンツの企画３：グッズ、展示
26、コンテンツの企画４：イベント
27、フィールドワークと情報発信１
28、フィールドワークと情報発信２
29、プリゼンテーション１：成果発表
30、プリゼンテーション２：成果発表

【成績評価の方法】

出席、レポート、およびプリゼンテーションによる評価。
授業への積極的参加も評価対象とする。

【教科書】

特に指定しない。

【参考文献】

推薦図書を配布する。

【備考】

授業の一部にワークショップの手法やフィールドワークが取り入れられる。

科　目　名			
学科特殊講義－キーワードで文化を比較			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	春学期集中	4単位	Michael Carroll

【講義概要・学習目標】
The aim of this course is to examine how culture is reflected through the way we use language. In every culture there are some important keywords which everyone knows. Thinking about these keywords is one way of trying to understand what the culture is about. For instance Doi Takeo（土居健郎）has claimed that amae（甘え）is an important concept in understanding Japanese society; many observers of Australia have noted that the phrase, 'she'll be right' expresses something basic about Australian culture; and in the US the phrase, 'the American dream', is often claimed to represent a core value in that society. This course will examine these and other key words in English-speaking and Japanese cultures.

【講義計画】
Mini-lectures, audio-visual materials, discussion. There will also be required reading, in English or in bilingual English/Japanese versions. Classes will consist of mini-lectures and discussions. The course will be entirely in English

【成績評価の方法】
Students should attend every class and be willing to participate in discussions. Each student will need to prepare and lead one discussion during the course. There will be short reports and quizzes occasionally. Students should keep a folder containing all the work done for the course. At the end of the course students will need to hand in this folder for assessment. There will be no examination.

【教科書】
Handouts will be given during the course

【参考文献】
Matsumoto Michihiro and Boye Lafayette de Mente. 2000.「日本らしあさ」を英語でききますか/Japanese Nuances in Plain English. Tokyo: Kodansha Bilingual Books

【備考】
英語による授業です。

科　目　名			
学科特殊講義－近世東南アジアの日本人町			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	春学期	2単位	蓮　田　隆　志

【講義概要・学習目標】
日本は海に囲まれた海洋国家だと言われ、例えばタイの在留邦人は登録しているだけで４万人近い。しかしながら、明治以前に列島の沿岸を離れて外洋に漕ぎ出していった日本人は案外少ない。唯一の例外が戦国～江戸初期で、東南アジアに多くの日本人が進出し、日本人町を形成した。
本講義ではこの時代に盛衰した東南アジアの日本人町について、「日本人の海外進出」といった側面だけでなく、当時の日本とアジアを取り巻く政治的・軍事的・経済的状況を強く意識しながら、具体的に論じていきたい。

【講義計画】
０．オリエンテーション
１．海が「開く」世紀と倭寇的状況
２．海が閉じるとき　「鎖国」と近世東アジアの国際秩序形成
３．南洋日本人町の盛衰：アユタヤ・ホイアン・マリラ・バタヴィア

【成績評価の方法】
期末試験およびコメントカード（詳細は初回に説明する）を基本とするが、受講者数や受講生の希望などを勘案して決定する。

【教科書】
使用しない。適宜プリントを配布する。

科　目　名			
学科特殊講義－日本の伝統文化概論Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	春学期集中	4単位	片　平　　幸

【講義概要・学習目標】
This course introduces students to some of main features of Japanese culture in English and aims to offer the opportunity to foster a broad and intercultural perspective to it. The course provides a brief history of and the fundamental concepts, theories, and practices of Japanese culture. By using visual supplements, issues related to art and aesthetics, such as paintings, gardens and architecture, will be mainly discussed in the class. During the course, a field trip is planned. As part of the course assessment, students are required to do oral presentation on relative issues and take final exam.

【講義計画】
week 1.　Introduction to the course
Week 2.　Visual culture Ⅰ
　　Key concepts/General History
Week 3.　Visual culture Ⅱ
　　Key concepts/General History
Week 4.　Visual cultureⅢ
　　Key concepts/General History
Week 5.　Visual cultureⅣ
　　Key concepts/General History
Week 6.　Field Trip
Week 7.　Images of Japan in the world:18th century
　　Japanese Art　in Europe
Week 8.　Images of Japan in the world:19th century Ⅰ
　　Japanese Prints in the West
Week 9.　Images of Japan in the world:19th century Ⅱ
　　Considering "Madame Butterfly"
Week10.　Images of Japan in the world today
　　Cool Japan/Traditional Culture
Week11.　Japanese gardens in contemporary context Ⅰ
Week12.　Japanese gardens in contemporary context Ⅱ
Week13.　Presentation
Week14.　Review
Final exam

【成績評価の方法】
Attendance and Class Participation 30%, Presentation 30%, Final Examination40%

【参考文献】
Tenshin Okakura, The Book of Tea, 1906 (Kodansha International, Tokyo 1998)
Paul Varley, Japanese Culture, 4 th updated edition, University of Hawaii press, Honolulu, 2000

【備考】
英語による授業です。

科　目　名			
学科特殊講義－日本の伝統文化概論Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	秋学期集中	4単位	片　平　　幸

【講義概要・学習目標】
This course introduces students to some of main features of Japanese culture and aesthetics and aims to offer the opportunity to foster a broad and intercultural perspective to it. In the first part of the course, we will watch some Japanese traditional performances and learn their basic knowledge and historical contexts. Second part of the course provides a brief history of and some key concepts/theories of Japanese Gardens and aesthetics. During the course, a filed trip to the related places will be planned. As part of the course assessment, students are required to do oral presentation on relative issues and take final exam.

【講義計画】
week 1.　Introduction to the course
Week 2.　Japanese performing arts: Folk performances and general background
Week 3.　Japanese performing art: History of Noh theatre
Week 4.　Japanese performing arts: History of Bunraku, puppet theatre
Week 5.　Field Trip
Week 6.　Japanese performing arts: History of Kabuki performance
Week 7.　Japanese performing arts: Rakugo-Japanese sense of humor
Week 8.　Japanese Performing arts Today
Week 9.　Introduction to Japanese gardens and its aesthetics
Week10.　Brief history of Japanese Gardens
Week11.　How to appreciate Japanese gardens?
Week12.　Images of Japanese gardens in the contemporary world
Week13.　Presentation
Week14.　Review
Final Exam

【成績評価の方法】
Attendance and Class Participation 30%, Presentation 30%, final Examination40%

【教科書】
Handouts will be provided.

【参考文献】
Josiah Conder, The Landscape Gardening in Japan, Kodansha International, Tokyo 2002)
Tenshin Okakura, The Book of Tea, 1906 (Kodansha International, Tokyo 1998)

【備考】
英語による授業です。

科　目　名			
学校図書館論Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	春学期	2単位	志保田　務

【講義概要・学習目標】
①学校図書館の意義や役割とは：「学校の中の図書館」としての特有の機能（指導的機能）と、図
書館自体がもつ共通的な機能（奉仕機能）に留意しつつ、学校図書館の意義と役割について認識す
る。
②学校図書館を掌理する司書教諭の役割とは：学校図書館司書教諭の役割について認識する。
授業の概要。
学校図書館に関する総論である。学校図書館について総括的に把握するとともに、「司書教諭科目」
の基礎科目という視点から学んで行く。「授業計画」に記したよう講義を展開する。

【講義計画】
第１回　学校図書館概説
第２回　学校経営と学校図書館（１）
第３回　学校経営と学校図書館（２）
第４回　学校図書館と法規・基準（１）
第５回　学校図書館と法規・基準（２）
第６回　学校図書館の管理運営（１）
第７回　学校図書館の管理運営（２）
第８回　学校図書館の管理運営（３）
第９回　司書教諭、学校司書の働き
第10回　学校図書館の授業への寄与（１）
第11回　学校図書館の授業への寄与（２）
第12回　学校図書館の授業への寄与（３）
第13回　学校図書館をめぐるネットワーク（１）
第14回　学校図書館をめぐるネットワーク（２）
第15回　まとめ

【成績評価の方法】
テスト（70%）、レポート（20%）、出席（10%）

【教科書】
志保田務・北克一・山本順一編著『学校教育と図書館：司書教諭科目のねらい・内容とその解説』第一法規

【参考文献】
今まど子編著『図書館学基礎資料』樹村房

科　目　名			
学校図書館論Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	秋学期	2単位	志保田　務

【講義概要・学習目標】
１）学校図書館メディアの種類と特性：学校図書館で収集するメディアの種類と特性を認識する。
２）学校図書館メディアの選択と構成：メディアの収集・選択の実際について認識する。
３）学校図書館メディアの組織化：収集したメディアの整理方法について認識する。
授業の概要
学校図書館において収蔵するメディアの構成について概説する。
それら各種のメディアをどのように
分類整理するのか、資料組織化の全般について具体的に説明する。

【講義計画】
第１回　メディアの構成：資料論
第２回　分類
第３回　書架分類
第４回　日本十進分類法（１）
第５回　日本十進分類法（２）
第６回　分類法演習（１）
第７回　分類法演習（２）
第８回　目録法
第９回　目録法（タイトル目録）
第10回　目録法（著者目録）
第11回　目録法（件名目録）
第12回　機械化目録
第13回　多様な学習環境と学校図書館メディア（１）
第14回　多様な学習環境と学校図書館メディア（２）
第15回　まとめ

【成績評価の方法】
テスト（70%）、レポート（20%）、出席（10%）

【教科書】
志保田務ほか『分類・目録法入門；メディアの構成　新改訂５版』第一法規

【参考文献】
志保田務【ほか】編著『学校教育と図書館』(第一法規)。ほか「指定図書コーナー」に備えた図書。

科　目　名			
学校図書館論Ⅲ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	春学期	2単位	山　本　順　一

【講義概要・学習目標】
この科目は、司書教諭の資格取得に資する科目のうちの‘学習指導と学校図書館’に相当する内容をもつもので、教職課程科目のうちの‘教科または教職に関する科目’のひとつとしても位置づけられている。
本講義は、学校図書館現場で活躍されている現職の司書教諭、学校司書の方々をゲスト講師として招き、校種ごとの実務に即した知識、技法を受講生に伝えようとする‘インテグレーション科目’として編成する。学校教育において展開される各教科の授業を支援する学校図書館のフィロソフィーとスキルを身につけてほしい。

【講義計画】
ゲスト講師との交渉や日程調整の関係で、若干の内容の変更や順序が前後することがある。

1　はじめに
2　教科教育と学校図書館
3　学校図書館活動と教育の計画化
4　学校図書館サービスⅠ
5　学校図書館サービスⅡ
6　小学校における学習指導と学校図書館
7　中学校における学習指導と学校図書館
8　高等学校における学習指導と学校図書館
9　中等教育一貫校における学習指導と学校図書館
10　大学図書館の学習支援
11　チーム・ティーチング
12　コミュニティやボランティアの関わり
13　公共図書館との連携
14　学校図書館ネットワーク
15　むすび：テスト

【成績評価の方法】
出席率、受講態度を参酌しつつ、レポート、および学期末の試験により総合評価を行う。

【教科書】
志保田務ほか 学校教育と図書館 第一法規

【参考文献】
渡辺重夫『学習指導と学校図書館』学文社, 2000
そのほか、講師により、その都度、紹介される。

【備考】
インテグレーション科目

科　目　名			
学校図書館論Ⅳ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	秋学期	2単位	山　本　順　一

【講義概要・学習目標】
この科目は、司書教諭の資格取得に資する科目のうちの‘読書と豊かな人間性’に相当する内容をもつもので、教職課程科目のうちの‘教科または教職に関する科目’のひとつとしても位置づけられている。
本講義は、学校図書館現場で活躍されている現職の司書教諭、学校司書の方々をゲスト講師として招き、校種ごとの実務に即した知識、技法を受講生に伝えようとする‘インテグレーション科目’として編成する。この科目の受講を通じて、児童生徒の情操教育、人格の陶冶に資する学校図書館の‘読書センター’機能の発揮に役立つ知識とスキルを身につけてほしい。

【講義計画】
ゲスト講師との交渉や日程調整の関係で、若干の内容の変更や順序が前後することがある。

1　読書の意義と目的
2　読書振興法制
3　読書と心の教育
4　読書指導の計画
5　読書指導の方法
6　読書材の検討
7　小学校における読書指導
8　中学校における読書指導
9　高等学校における読書指導
10　科学教育と読書
11　大学教育と読書
12　‘読み聞かせ’の実際
13　家庭と読書
14　地域、公共図書館と読書
15　テスト

【成績評価の方法】
出席率、受講態度を参酌しつつ、レポート、および学期末の試験により総合評価を行う。

【教科書】
志保田務ほか 学校教育と図書館 第一法規

【参考文献】
黒古一夫ほか『読書と豊かな人間性』学文社, 2007.
そのほか、講師により、その都度、紹介される。

【備考】
インテグレーション科目

科目名			
株式会社会計			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	秋学期	2単位	河野　勉

【講義概要・学習目標】
本講義では、初級の商業簿記の履修を終えた学生を対象に、中級程度の商業簿記（株式会社の簿記）を講義する。
簿記の学習には、計算方法や簿記的な考え方に慣れることが必要なため、毎時間、練習を解く学習を中心に授業を進める。
財務諸表論学習のための基礎知識や公認会計士・税理士等の資格試験受験の出発点として必要な簿記能力の習得を目標とするので、受け身にならず積極的に授業に参加してもらいたい。

【講義計画】
1．簿記一巡の取引と財務諸表
2．銀行勘定調整表、有価証券取引
3．債権債務取引、手形取引（裏書、割引）
4．商品売買取引、引当金取引
5．特殊商品売買取引
6．固定資産取引
7．損益取引
8．株式会社会計
　①株式会社、②会社の資産、③設立時の会計処理
　④増資の会計処理、⑤減資の会計処理、⑥純資産
9．株式会社会計
　①繰延資産、②剰余金、③資本剰余金
10．株式会社会計
　①会社の合併、②社債
11．株式会社会計
　①決算手続、②S桁精算表、③決算整理事項
12．株式会社会計
　財務諸表（決算書）
13．株式会社会計
　本支店会計
14．帳簿組織、伝票式会計

【成績評価の方法】
定期考査の成績に、適宜ホームワークを課し、その提出物等を加味して、総合的に評価する。

【教科書】
・加古　宜士・渡辺裕亘（編著）
「新検定簿記ワークブック２級商業簿記」（中央経済社）
「新検定簿記講義２級」（中央経済社）

科目名			
環境経済論			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	通期	4単位	浦出俊和

か行

【講義概要・学習目標】
環境問題は、人間の経済活動の結果生じたものであり、人間の生活の豊かさを維持することと環境保全はトレード・オフの関係にある。経済発展と環境保全の両立の上では、環境の経済的特質を理解することが必要不可欠である。
本講義では、環境の特質や環境問題発生要因を経済学の理論を用いて解説するとともに、環境問題解決のための環境政策における経済的手段について取り上げる。
環境経済論では、ミクロ経済学や公共経済学を援用するが、講義の中で基礎的な理論も解説する予定であるので、これらの知識がない者でも歓迎する。

【講義計画】
1．環境問題とは何か？
2．環境問題と経済学
3．ゴミ問題－ゴミの増大要因
4．ゴミの需要と供給
5．ゴミの市場の特質
6．ゴミの有料化とリサイクルの問題
7．PPPの原則と拡大生産者責任
8．環境問題の経済学的意味
9．市場均衡の意味
10．市場の失敗
11．環境問題と外部性（1）
12．環境問題と外部性（2）
13．環境問題と外部性（3）
14．中間テスト
15．環境問題と公共財（1）
16．環境問題と公共財（2）
17．環境政策の経済的手段と最適汚染水準
18．直接規制と間接規制
19．ピグー税とピグー的補助金
20．数量規制と課徴金制度の比較
21．課税負担の問題
22．デポジット制度
23．コースの定理
24．京都議定書の概要とその意義
25．排出量取引の仕組みと問題
26．非枯渇性資源問題とゲーム論
27．環境価値の経済評価
28．期末テスト

【成績評価の方法】
原則として、学年度末試験の成績によって評価する。ただし、受講生数が適度な限度数内であれば、前期末に中間試験を行い、成績評価に加味する予定。

【教科書】
特に指定しないが、講義概要や講義資料は下記を参照のこと。
http://rio.andrew.ac.jp/~urade/envi-index.html

【参考文献】
1）植田和弘（著）『環境経済学』（岩波書店）
2）R.K.ターナー・D.ピアス・I.ベイトマン（著）大沼あゆみ（訳）『環境経済学入門』（東洋経済新報社）
3）日引聡・有村俊秀（著）『入門環境経済学』（中公新書）

科　目　名			
環境問題概論			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	春学期集中	4単位	巖　　圭　介

【講義概要・学習目標】

地球温暖化、化学物質、リサイクル・・・、環境問題はすでに身近にあり、多くの人が漠然とした不安を持ちながら、しかし具体的に行動を起こすことなく毎日を送っている。私たちの生活の何がどのように問題なのか、多くの情報があふれかえる現在、信頼できる基礎知識を身につけ、これからの自分の行動を決めていかねばならない。

この講義では、これからの時代を生きていくうえで必須と思われる、主要な環境問題に関する基礎知識を身につけてもらうとともに、それぞれの問題に対し今何をすべきか、何がなされているか、何ができるかを、ともに考えていきたい。

【講義計画】

時事問題も取り入れながら、おおむね以下のテーマを扱う（順序は変更の可能性あり）。

・ゴミ問題
・人工化学物質汚染
・酸性雨、オゾン層破壊
・地球温暖化
・土壌劣化、水危機、食糧問題
・エネルギー問題

【成績評価の方法】

テーマの区切りごとに課すイン・クラス・レポート（授業時間中に書く短いレポート）や小テスト、提出自由のボーナスレポート、および期末試験により判定する（詳細は初回講義にて説明）。

【教科書】

なし

【参考文献】

遠山益『人間環境学』裳華房　2001
石弘之『地球環境報告Ⅱ』岩波新書　1998
安井至『市民のための環境学入門』丸善ライブラリー　1998
東京商工会議所『ECO検定公式テキスト』日本能率協会マネジメントセンター　2006

科　目　名			
監査論			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	秋学期集中	4単位	朴（バク）　大（テ）　栄（ヨン）

【講義概要・学習目標】

バブル経済の崩壊とともに、長期にわたる不況が数多くの企業倒産を引き起こしてきた。倒産企業においては、経営者による不正や粉飾財務諸表の作成が判明することもある。監査人が適正意見を表明した財務諸表の発行会社が、その直後に倒産することもある。このような状況のもと、監査の中身に対する社会的関心も高まり、監査基準や公認会計士法などの大幅な改訂も実施された。

監査論は、企業の独断専行を抑え、一般社会との協調を計らせるための会計学、経営学等の応用理論に属する。今年度の講義は、このような社会背景のもと、監査の基礎知識のみならず、現行の監査制度の問題点などにも触れていくことにする。

本講義においては、企業と外部利害関係者とくに投資家との間に介在する証券取引法監査ないし会計監査を中心に、監査に関する基礎知識の理解を目的とする。

【講義計画】

講義の順序を示す。

第１章 社会を揺るがす経済事件
第２章 経済事件とコーポレートガバナンス
第３章 経済社会を支える財務情報
第４章 財務情報と監査の必要性
第５章 監査を取り巻く法律
第６章 監査を担当する人
第７章 監査を取り巻く組織
第８章 監査のルール
第９章 監査のプロセス１
第10章 監査のプロセス２
第11章 監査結果の報告
第12章 新たな課題
第13章 健全な社会と監査

【成績評価の方法】

定期試験の成績と出席状況を勘案して評価する。

【教科書】

盛田良久、百合野正博、朴大栄編『まなびの入門監査論』、中央経済社

【参考文献】

鳥羽至英著　『監査基準の基礎』　白桃書房
山浦久司著　『会計監査論』　中央経済社
その他、講義中に適宜指示する。

科　目　名			
環太平洋圏経営研究A			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	春学期	2単位	岸　本　裕　一

【講義概要・学習目標】
日本を含む環太平洋圏（南北アメリカ、東アジア、オセアニア、ロシア極東地域を含む圏域）は、文明の転換期とも言うべき歴史的ダイナミズムの中にある。中国・台湾のWTO加盟や、APECのありようは、そのサニーサイドであり、また、たとえば、1998年に起こったアジアの金融危機などは、そのダークサイドということができよう。また、中国の通貨人民元の為替レートの問題も国際的な関心事の１つである。さらに、以前の常識からは想像しにくいことも数多く生起している。このような中にあって、環太平洋地域の経営をめぐる諸問題を学ぶことは、経営学研究に携わるものにとっては必須の要件である。また、このような学びは、本学の建学の精神である「世界の市民」という視点からも避けては通るとのできない学びとなっている。
受講生である院生諸君の研究の視野や問題意識をより大きく広げてもらうチャンスと捉えて、多くの受講を期待する。トピックとしては、経営、経済問題を主としつつも、政治、文化、環境問題などといった関連領域にも触れながら、グローバルかつローカルな問題認識の目とセンスを身に着けたいものである。各界の実力者・著名人を数多く招いての講義展開となるので、１回生は必修科目に準じた認識の下での受講を期待する。

【講義計画】
＜春学期＞
第１回は「環太平洋圏経営研究の実践的課題と方法論」として岸本が講義した後、第２回以降は、韓国、中国、アメリカ、東南アジア、中南米、ロシア極東地域の　経済動向と経営の展開について、専門家によるリレー講義となる。
（注記）前・後期とも詳しい日程は、ゲスト講師等との調整が必要なため、オリエンテーションの時点で公表される。

【成績評価の方法】
１．講義への出席と関与の程度
２．レポートの評価

【教科書】
特に指定しない。

【参考文献】
特に指定しない。

【備考】
インテグレーション科目

科　目　名			
環太平洋圏経営研究B			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	秋学期	2単位	岸　本　裕　一

【講義概要・学習目標】
日本を含む環太平洋圏（南北アメリカ、東アジア、オセアニア、ロシア極東地域を含む圏域）は、文明の転換期とも言うべき歴史的ダイナミズムの中にある。中国・台湾のWTO加盟や、APECのありようは、そのサニーサイドであり、また、たとえば、1998年に起こったアジアの金融危機などは、そのダークサイドということができよう。また、中国の通貨人民元の為替レートの問題も国際的な関心事の１つである。さらに、以前の常識からは想像しにくいことも数多く生起している。このような中にあって、環太平洋地域の経営をめぐる諸問題を学ぶことは、経営学研究に携わるものにとっては必須の要件である。また、このような学びは、本学の建学の精神である「世界の市民」という視点からも避けては通るとのできない学びとなっている。
受講生である院生諸君の研究の視野や問題意識をより大きく広げてもらうチャンスと捉えて、多くの受講を期待する。トピックとしては、経営、経済問題を主としつつも、政治、文化、環境問題などといった関連領域にも触れながら、グローバルかつローカルな問題認識の目とセンスを身に着けたいものである。各界の実力者・著名人を数多く招いての講義展開となるので、１回生は必修科目に準じた認識の下での受講を期待する。

【講義計画】
＜後期＞
最新のトピックを盛り込んだ講義、たとえば、小売業のあり方、環境問題への取組、コンテンツ産業の展開などにつき専門家のリレー講義となる。そして、最終回は「取りまとめの講義」を岸本が行なう。
（注記）詳しい日程は、ゲスト講師等との調整が必要なため、オリエンテーションの時点で公表される。

【成績評価の方法】
１．講義への出席と関与の程度
２．レポートの評価

【教科書】
特に指定しない。

【参考文献】
特に指定しない。

【備考】
インテグレーション科目

科　目　名			
管理会計論			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	春学期集中	4単位	谷　武　幸

【講義概要・学習目標】
管理会計は経営戦略を実現するためのシステムです。管理会計では、経営戦略の実現に向けて将来を計画（plan）し、このプランの実行（do）プロセスにおいてプランの実現をチェック（check）し、必要なアクション（action）をとるという一連のサイクル、つまりPDCAサイクルを回します。この講義では、管理会計の基本の理解を目指します。

【講義計画】
第Ⅰ部　管理会計の基礎
1　管理会計の意義
2　管理会計の基礎概念
3　意思決定会計の方法
4　業績管理会計の方法
第Ⅱ部　基本のPDCAサイクル
5　原価管理
6　長期経営計画
7　設備投資計画
8　利益計画
9　予算管理
10 事業部制会計
第Ⅲ部　戦略管理会計
11 戦略管理会計の意義
12 バランスとスコアカード
13 ABC/ABM
14 原価企画

【成績評価の方法】
試験の成績により評価します。

【教科書】
溝口一雄 管理会計の基礎 中央経済社
このほか、プリントを配布します。

科　目　名			
企業論			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	秋学期集中	4単位	坂　本　雅　則

【講義概要・学習目標】
食料品等の偽装問題などを思い浮かべれば，現代社会における「企業」の役割は大きく，社会全体に重大な影響を及ぼすことは端的にわかります。
現代社会の問題を解決するには，多大な影響力を持つ企業を「どのように捉え，どう認識し，どう制御するのか」ということが重要な課題となり，企業における「所有者・支配者・権力者は誰なのか」ということを特定することが不可欠です。
このような課題はこれまで企業支配論やコーポレート・ガバナンス論という領域で議論されてきました。本講義では，既存学説にとらわれず，企業における権力関係を分析するにはどうすればよいのか，ということを中心に話を進めます。具体的には株式会社に関する議論からはじめて，これまでの学説では何が見えて，何が見えないのかを事例も使いながら見ていこうと思います。

【講義計画】
1．イントロダクション
2．株式会社とはどういう企業形態であるのか
3．企業における権力者は誰か
　①法律的所有者を権力者と考えるアプローチ
　②地位の占有者を権力者と考えるアプローチ
4．既存学説としてどのようなものがあるのか
　①Berle/Means・Blumbergの学説
　②Burnham・Gordon・Galbraithの学説
5．事例分析
　①小規模個人企業の場合
　②閉鎖株式会社の場合
　③公開株式会社の場合
6．既存学説の限界

【成績評価の方法】
概ね期末テストが6割，平常点4割で評価します。
平常点とは授業態度とテスト後に提出してもらう講義ノートの内容です。

【教科書】
坂本雅則『企業支配論の統一的パラダイム－「構造的支配」概念の提唱－』文眞堂

【参考文献】
必要があれば授業中に触れます。

【備考】
講義計画はあくまで計画であって，学生の理解度に応じて若干の変更はなされます。

科目名			
基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担当者
01	通期	4単位	佐藤啓子

【講義概要・学習目標】
基礎演習は、大学教育への適応を容易にするためのアカデミック・ガイダンスである。大学での勉学に必要な基礎的技術の習得を図るため、講義ノートの取り方、情報機器を利用した文献・資料等の検索、図書館利用の方法、研究テーマの設定方法、文献収集の方法、ディベート、報告書・論文の書き方、報告実践、文献購読等を中心とする。それにより、学習のための基本技術の習得およびモティベーションの向上を図る。
また、少人数クラス編成により人間関係形成を援助し、大学生活を円滑にするための側面支援を行う。

【講義計画】
ガイダンス、長期休暇、ゼミ人数との関係で、講義内容が前後することがある
第一講　自己紹介と春学期の計画
第二講　図書館ガイダンス
第三講　建学の精神
第四講　情報センターガイダンス
第五－七講　大学における講義の気構え・ノートの取り方
第八－九講　就職ガイダンス
第十－十一講　レポートの書き方
第十二－一四講　法学答案作成のポイント

第十五講　秋学期の計画
第十六－十八講　ディベートのやりかた（1）
第十九－二十五講　資料リサーチ・演習報告実習
第二十六－二十七講　ディベートのやりかた（2）
第二十八講　全体のまとめ

【成績評価の方法】
出席とその態度・発言、提出物で決定する。

【教科書】
弥永真生 法律学習マニュアル 有斐閣
ポケット六法、コンパクト六法、コンサイス六法のいずれか
３種類のうちどれでも可

【参考文献】
武居一正『法学部新入生のための学ナビ』法律文化社（ISBN:4-589-02928-6）

科目名			
基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担当者
02	通期	4単位	瀬谷ゆり子

【講義概要・学習目標】
大学では、自らの主体的な学修が望まれる。教えられることを正確に理解するだけではなく、自らの考えを裏付ける調査を行い整理し、それを口頭および文書の形で発表して他人に伝え、批評を受けることが求められる。
演習では、社会科学の基礎的な部分にふれることで、これから法学部でどのようなことを学ぶのか、それにはどのような方法が必要であるのかを感じてもらいたい。今後の専門的な研究への期待と関心が深められるように、構成メンバーの自由な意見交換を行える場としたい。

【講義計画】
＜春学期＞
図書館・情報センター等の施設を利用した文献・資料収集方法のガイダンスを受けた後、まず、グループごとに特定のテーマについて、以下のような手順で報告するという経験をしてもらう。
1．問題の設定、グループ分け
2．資料の収集（図書館における検索の実習を含む）
3．レジュメ（報告要旨）の作成・グループ報告の打ち合わせ
4．質問への対応
5．レポート作成
その後、各人の関心テーマについて一人でこれを行なう。
＜秋学期＞
希望により、特定のテキストを使用し、問題設定・報告・議論を行い、それぞれレポートを作成する。その他、判例研究の基礎、ディベート等も行いたい。

【成績評価の方法】
出席・議論への参加状況およびレポートを総合評価する。

【教科書】
春学期は特に使用しない。
秋学期は、受講者の希望を聞いて決定する。
なお、六法（出版社は問わない）は必ず持参すること。
使いこなせるように、ガイダンスを行います。

科　目　名			
基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
03	通期	4単位	田　中　志津子

【講義概要・学習目標】

教師から教えてもらうだけの「受身」の学び方ではなく、文献を調べる等自分から積極的に行動する学び方を身に付ける。

文献収集方法、文献講読方法、レポート・論文の書き方、報告手順、議論の進め方等を学び、大学での教育を有効に習得できるようにする。

【講義計画】

・文献収集方法、出典の表記方法
・文献講読・要旨抽出
・ノートの取り方、レポート・論文の書き方
・報告手順（準備したものを読めばよいわけではない）
・議論の進め方（ディベートの練習）　など

【成績評価の方法】

出席状況・報告・発言・取組姿勢・提出物等を総合的に評価する。
正当な理由のない遅刻・欠席・提出物の未提出などは一切認めない。

【教科書】

適宜指示する。

【参考文献】

・適宜指示する。
・猶、条文を参照することがあるので、指示があれば最新の六法を授業に携帯すること。

【備考】

・携帯電話の着信音を必ず切っておくこと。その他、授業の妨げになる行為を行った者は退出させる。

科　目　名			
基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
04	通期	4単位	寺　田　友　子

【講義概要・学習目標】

法の存在は、トラブルに遭遇して認識される。加害者にも、被害者にもなりうる可能性があるトラブルとして自動車による交通事故を挙げることができる。

春学期は、自動車事故に基づく損害賠償の具体的な判例を素材に、六法の使い方、読み方文献の探索方法、損害賠償の法理、法の適用過程、民事訴訟の概略、最高裁判所判決の読み方等、法学を学ぶ上で基礎的な知識等を学ぶ。あわせて、受講生の体験等に基づいて、道路交通法に基づく自動車運転の安全確保手段等についても理解を深める。

尚、質問等を気軽に行いうるためには、演習生相互の親睦が欠かせないものと考えるから、早い時期に昼食会を持ちたい。

夏休みの課題として、リストアップした最高裁判所民事判例の内から各自１つ選択し、レジュメ又はレポートを作成する。
秋学期に入ると演習時間中にそのレポートを報告する。

他の演習生は報告者に質問し、応答を求めた後、報告された事案につきレポートを書き毎回提出する。このレポートについては毎回添削し返却する。このことにより、人の報告を聞いて、ノートをとる能力等を養いたい。

最終的には、事故の報告した判例につき最終レポートを提出する。

【講義計画】

春学期
1　ガイダンス
2　自己紹介
3　昼食会
4　六法の使い方等
5　文献の探索方法
6　図書館ガイダンス
7　損害賠償の法理
8　自動車損害賠償保障法について
9　最高裁判所の１つの判例（１）
10　最高裁判所の１つの判例（２）
11　法の適用過程
12　民事訴訟の概略（１）
13　民事訴訟の概略（２）
14　相続法の概略
秋学期
毎時間、１つか２つの判例のレポート
自己の担当判例についての研究を最終レポートとして提出

【成績評価の方法】

正当な理由なき欠席は、受講を放棄したものとみなす。単位取得の最低条件は、皆出席である。

授業時間中における質問、自己の報告、授業に対する積極性、毎回のレポート等を総合的に勘案して評価する。

【教科書】

交通事故判例百選（第四版）有斐閣
ポケット六法 悠斐閣

【参考文献】

適宜紹介する。
損害賠償算定基準（上・下）（赤本）等々